

---

# 遊戯王GX ~ 混沌なる世界の混沌の決闘者 ~

ネオクリムゾン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊戯王GXの混沌なる世界の混沌の決闘者

### 【Nコード】

N7151T

### 【作者名】

ネオクリムゾン

### 【あらすじ】

少年が死んだ。そして少年は生前好んでいた世界に転生する。けどその世界は少年の知る世界と違って……

ターン：1 デュエルアカデミア入学試験！（前書き）

この小説はオリカがたくさんあります。そういうのが嫌な人は見ずに帰ってください。オリカの詳しい説明は後書きにあります

\* 6月5日 指摘があったので修正しました

## ターン：1 デュエルアカデミア入学試験！

ここは海馬コーポレーションの前にある大型ドーム。

ここでデュエリストを育成するための学校、【デュエルアカデミア】の入学試験が行われていた。

そして今日、新しく物語の鍵となる少年がやってきた…

「受験番号0番！デュエル場上がるノーネ！」

「はい」

大きな男、クロノスの声に答えながら少年がデュエル場に上がっていく。受験番号0番と言う言葉に会場が騒めく

「受験番号0番？何だそれは？」

「知らないの貴女？受験番号0番と言えば、筆記試験免除の推薦生の事よ。どこの推薦かは分からないけど…」

「ほう…すごいものだな…」

「君が特別受験番号0番ノー…」

「夜神光也よがみ ひろみです。あなたが俺の相手ですか？」

「そんなノーネ。あなたの筆記試験免除されてるから、この私…実技最高責任者のクロノス・ディメチが直々に試験の相手してあげる

ノーネ！」

「じゃ…よろしく願いします」

「デュエル！」

その言葉とともに光也とクロノスの（クロノスのはデュエルコート）デュエルディスクが起動する

「先行は君に譲るノーネ」

「じゃあ遠慮なく…ドロー！」

光也はデッキからカードを勢いよくドローする

「手札から混沌の闇術師・ダスクを攻撃表示で召喚！」

光也のフィールドにコートを着た全体的に黒い印象を持つ女性の魔術師が現れる

混沌の闇術師・ダスク      4      闇属性      魔法使い族      攻撃力170  
0      守備力1500

「見たこともないモンスターなノーネ…」

「俺はカードを一枚伏せてターンエンド」

光也      LP4000      手札四枚      場混沌の闇術師・ダスク      伏せ力  
ード一枚

「私のターン、ドローナノーネ！手札からトロイホースを通常召喚するノーネ！」

トロイホース 4 地属性 獣族 攻撃力1600 守備力1200

「更に二重召喚発動！このターン私はもう一度通常召喚を行える！そしてトロイホースを生け贄に捧げ…古代の機械巨人を召喚するノーネ！」

トロイホースが光になって消えたかと思うと、クロノスのフィールドに巨大な機械巨人が現れる。

古代の機械巨人 8 地属性 攻撃力3000 守備力3000

「バトル！古代の機械巨人で混沌の闇術師 - ダスクを攻撃！アルテイメット・パウンド！」

「ダスクの効果発動！1ターンに1度、混沌と名の付く闇属性モンスター一体の攻撃力を500ポイントアップさせる！」

混沌の闇術師 - ダスク 攻撃力1700 2200

「攻撃力をアップ…でも古代の機械巨人には及ばないノーネ！」

「知ってるよ。手札からオネストの効果発動！光属性モンスターが相手と戦闘を行うダメージステップ時、手札からこのカードを墓地に送る事で、エンドフェイズ時までそのモンスターの攻撃力を戦闘を行う相手モンスターの攻撃力分アップする！」

混沌の闇術師 - ダスク 攻撃力2200 5200

「ちょ、ちよっと待つノーネ!」

「何ですか?」

光也の発動条件の合っていないオネストの効果発動にクロノスは戸惑う

「そのモンスターの属性は闇じゃないノーネ!?!」

「混沌の闇術師 - ダスクはフィールドでの属性は光としても扱う!」

「なんですつとー!?!」

「迎撃しろ!ダスク!」

ダスクの背中にオネストの翼が生え、巨大な黒い魔力弾を放つ。魔力弾は古代の機械巨人を破壊し、そのままクロノスに当たる

クロノスLP4000 1800

「くっ!?!…私は強欲な壺を発動!デッキからカードを2枚ドロ―するノーね!カードを1枚伏せてターンエンドなノーネ…!」

クロノスLP1800 手札三枚 場 リバースカード1枚

光也LP4000 手札3枚 場 混沌の闇術師 - ダスク リバ―スカード一枚

「俺のターン、ドロ―。ダスクを生け贄に捧げ、魔法カード混沌の

「闇を発動！」

光也が魔法カードを発動するとダスクが黒い影みtainなものになりそれが地面を黒く染め、光也とクロノスのリバースカードが地面に沈みこむ。

「何なノーネ、これは！？私の聖なるバリアーミラーフォースが！？」

「このカードは混沌と名の付くモンスターを生け贄に捧げ発動する。フィールド場に存在する全ての魔法・罠カードを墓地に送る。そしてお互い墓地に送ったカードの数だけ、ドローする。墓地に送ったのは二枚：お互い二枚ドロー」

光也とクロノスはお互いカードをドローする。だがクロノスの表情はすぐれない

（くっ：まずいノーネ。もし、このボーイの手札に攻撃力1800以上のモンスターがいたら…）

「俺は手札から混沌の光術師 - ライカを召喚」

光也のフィールドに混沌の闇術師 - ダスクを白くした感じの女性の魔術師が現れる

混沌の光術師 - ライカ レベル4 光属性 魔法使い族 攻撃力1500 守備力1700

（助かったノーネ！今の私の手札なら次のターン、逆転ができる！ノ。さつき引いたカードは愚かな埋葬。これでデッキから古代の機械巨人を墓地に送り、古代の機械工場で手札の古代の機械巨人を召



喚して攻撃で…)

「手札からフィールド魔法、混沌世界一カオス・ワールドを発動」

光也がフィールド魔法をデュエルディスクにセットすると、周りの風景が白と黒のモノクロの世界になる。

「なんなノーネ！？このフィールド魔法は！？」

「俺は手札から魔法カード、魂の解放を発動！互いの墓地から合計5枚カードを除外する！俺は自分の墓地の混沌の闇術師・ダスクとあんたの墓地の古代の機械巨人、トロイホース、二重召喚、強欲な壺を除外する！」

「くっ…私のカードが……」

クロノスが悔しそうに墓地からカードを取り出し、コートの内ポケットにしまう

「更に除外されている混沌の闇術師・ダスクの効果発動！フィールド魔法、混沌世界一カオス・ワールドが発動してこのカードが除外されてる時、墓地のカードを1枚除外すること、このカードをフィールドに特殊召喚する！戻ってこい！混沌の闇術師・ダスク！」

光也が墓地からカードを除外すると光とも闇ともおぼつかない空間から、混沌の闇術師・ダスクが出てくる。

「な…なんですトーノ！？」

「バトル！ダスクとライカでダイレクトアタック！」

ダスクとライカの持つ杖から出た白色と黒色の魔力弾がクロノスに当たる

「ペペロンチノ!?」

クロノスLP1800 3000

デュエルが終わると同時に会場の観客が沸き上がった。無理もない。受験生が試験官に無傷で勝利。しかも1ターンキルだ。騒ぐのも当然と言えよう。

(さて…さつさと帰って、『会長』に報告するか…その前に『社長』と『遊也』に会いに行くか…)

「やあ!」

考えていた光也に、誰かが話しかけてくる

「ん?お前は…?」「受験番号3番、三沢<sup>みさわ</sup>大地<sup>だいち</sup>だ。君のデュエル、見せてもらったよ!実に興味深い!あのカード、どこで手に入れたんだ?」

「別に話しても構わないが…お前3番なら次、試験じゃないのか?」

デュエルアカデミアの入学試験試験は1、2、3と纏めてやる

「ああ!すまない!じゃあ後でいいか?」

「俺はさつさと家に帰るつもりだからな…デュエルアカデミアでど

うだ？」

「ああ、じゃあな夜神」

「じゃあな、三沢」

そう言つて俺は『会長』に報告する前に、『社長』と『遊也』に会つていくため海馬コーポレーション本社ビルに行くことにした

## ターン：1 デュエルアカデミア入学試験！（後書き）

### オリカー一覧

混沌の闇術師 - ダスク      4      闇属性      魔法使い族      攻撃力1700  
0      守備力1500

このカードのフィールドでの属性は「光」としも扱う

1ターンに1度混沌と名の付いたモンスター一体の攻撃力をターンエンドフェイズ時まで500ポイントアップすることができる。この効果は相手ターンでも使える

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在しこのカードが除外されてる時、自分の墓地のカードを一枚除外する事でこのカードを特殊召喚する事ができる

### 混沌の暗闇

#### 通常魔法

自分フィールド上の混沌と名の付いたモンスター一体をリリースして発動する

フィールドに存在する全ての魔法・罨カードを墓地に送り、互いに墓地に送ったカードの枚数分ドロウする

混沌世界一カオス・ワールドが表側表示で存在する場合、自分フィールド上の魔法・罨カードは墓地に送らなくてもよい

混沌の光術師 - ライカ      4      光属性      魔法使い族      攻撃力1500  
0      守備力1700

このカードのフィールドでの属性は「闇」としも扱う

1ターンに1度混沌と名の付いたモンスター一体の守備力をターンエンドフェイズ時まで500ポイントアップすることができる。この効果は相手ターンでも使える

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在しこのカードが除外されてる時、自分の墓地のカードを一枚除外する事でこのカードを特殊召喚する事ができる

ターン：2 『会長』と『社長』と『遊也』と…（前書き）

今回はデュエルなしです。短いです

ターン：2 『会長』と『社長』と『遊也』と…

（光也Side）

唐突に話すけど、俺は転生者だ。トラックに跳ねられて死んだかと思ったら、遊戯王GXの世界に転生してた。……………何とも王道的な転生だったな。あまりの王道的な転生に混乱するより先に、笑っちゃまったよ。まあそのおかげでペガサス会長に会えた。1人で大声で笑ってる俺を不思議に思ったらしい…事情を話した俺はそれ以来ペガサスミリオンの一人となって色々働いた。最終的に俺はペガサスの養子となった。そして養子となった俺はデュエルアカデミアに行くことになり養父さんに筆記試験免除を免除してもらい、俺専用のカードシリーズを貰った

「しかし三沢の受験番号が3番か…」

そつだ。三沢の受験番号が3番。俺の受験番号は0番だから試験順位が変わることはない…

「最低でも、俺以外のイレギュラーが2人居るってことか…」

俺みたいな転生者か？それとも俺が介入したことによる原作崩壊か？

「ま…考えたところで答えは分からねえか…」

それに三沢の順位が変動しただけで、実際は増えてないのかも知れないしな。そこんこは後で社長に確認するか…

「おっと…考えている内に、海馬コーポレーション本社ビルに来ち

「まったか…」

「つかさつきから俺の口調、やけに説明的だなおい。ま、とりあえずは…」

「すいませ〜ん。受け付け嬢さ〜ん」

「何でしょうか？（うわ…この子背が高くてカッコいい。後で部屋に連れ込みたい…）」

「（ぶるっ！？何だこの寒気は！？）しゃ、社長に会いに来たんだけど、部屋どこ？」

「社長ですか…？失礼ですが、アポはとっておられますか？」

「んなの別に必要ねえな。夜神光也が来たって言えば分かるし」

「は、はあ…少々お待ちください…」

「ああ」

数十秒後…

「確認しました。直ぐに通せとおっしゃってます」

「（思ったより早ええな！？）ま、いいか。じゃあ行かせてもらおうよ」

「お気をつけください」



社長室…

「来たぞ〜」

社長室に入るとイスに座って仕事をしている海馬社長が見えた

「来たか…貴様のことだから来ると思ってたぞ？」

「おお、そうか。どうりで早かったわけか。偽名で誰か来る線を考えなかったか？」

「貴様に俺が会うときは、夜神光也としか名乗らないだろう？貴様を語る奴なら光也・Y・クロフォードと名乗る筈だ」

「ま…そうだな。所で社長、俺の用件だけだな…」

「試験の事か？」

「そうよ。今年って実技試験に何人が通ったんだ？」

「112人だ…その内トップ2人は満点で受かったらしいぞ？」

「へえ…満点ってことはあの問題も解いたのか…結構難しくしたつもりだったんだけどな」

あの問題とは、詰めデュエルのことだ。かなり柔軟な発送を求められるから解ける奴はいないと思ってたし、ましてや満点取る奴がいるとは…

「実際かなり難しかったらしいな。解けたのはその2人だけだった」

「へえ…それはかなり楽しみだな…その2人の資料ある？」

「貴様のことだから、欲しがると思ってたぞ。持ってけ」

そう言っつて海馬は机の中から資料の束を取り出すと、それを俺に投げ渡す。よく空中でバラバラにならなかったもんだぜ…

「サンキュー。んじゃ」

「礼を言っつなら、さっさと俺専用のカードを作れ」

「まだまっつてくれよ。効果は決まっつてるんだが、デザインを思案中なんだよ」

「ふっ…なるべく早く作れよ？」

「ああ…とっつそうっつ」

「何だ？」

「遊也は今どこに居るんだ？」

「不動か？奴なら今は実験中だ。しばらく時間がかかる」

「そうか…じゃあ今日は止めとくか。今度こそじゃましたな…」

そう言っつて俺は社長室を出た。俺は自分が泊まるホテルで資料を確認する。

「この2人か…1人はあの大会の優勝者…もう一人は特に目立った経歴は、なしか…まあいい楽しみにさせてもらうぞ…八神リインフオース、ブルーノ・アンチノミー」

ターソン：2 『会長』と『社長』と『遊也』と…（後書き）

テンションが上がって2日連続投稿。けど次の投稿はいつになるか分かりません

ターン：3 『混沌』対『HERO』 調律の力（前書き）

原作主人公とのデュエル！シンクロがでます！

ターン：3 『混沌』対『HERO』 調律の力

「ふああああ、何で学校の校長の話してあんなに長いんだ？まだ眠い…」

俺はデュエルアカデミアの入学式を終えて自分の寮に向かっている。アカデミアの試験に合格した俺の制服はライイエローだ

「あ…あなたは！」

「ん？」

そう言つて顔を声の方に向けると、原作主人公の遊城十代がいた

「あんた入学試験で試験官を1ターンキルした夜神光也つて人だろ！？俺は遊城十代だ！俺とデュエルしてくれよ！」

「ああ！構わないぜ！（おかしいな…確か遊城十代は入学試験遅刻したんじゃないかったのか？俺の思い違いか？）」

「デュエル！」

俺と十代の2人がデュエルディスクを起動する

「先行はいただくぜ。ドロー！ふむ…俺は手札から混沌の光術師・ライカを守備表示で召喚」

混沌の光術師・ライカ      4      光属性      魔法使い族      攻撃力150  
0      守備力1700

「カードを三枚伏せてターンエンドだ」

光也 LP4000 手札二枚 場混沌の光術師 - ライカ 伏せカード三枚

「俺のターン、ドロー！手札からE・HEROバブルマンを攻撃表示で召喚！」

十代のフィールドにツノマスクにマントを羽織っている男が現れる

E・HEROバブルマン 4 水属性 戦士族 攻撃力800  
守備力1200

「バブルマンの効果発動！バブルマンが召喚された時自分フィールド場にこのモンスター以外のカードが存在しない場合、デッキからカードを二枚ドローする！」

十代のドローに内心で光也が驚く

(いきなりドローかよ！？俺も人のこと言えないが)

「手札から魔法カード融合発動！手札のフェザーマンとバーストレディを融合！来いE・HEROフレイム・ウィングマン！」

十代が融合を発動するとフェザーマンとバーストレディが混ざり合い右手が龍の口のようにになっているモンスターが現れる

E・HEROフレイム・ウィングマン 6 風属性 戦士族 攻撃力2100 守備力1200

「この瞬間速攻魔法発動！終焉の地！」

「何だその魔法？」

十代のセリフに若干光也が呆れる

「（このカードは普通のカード何だかな…）終焉の地は相手がモンスターを特殊召喚した時発動できるカード。デッキからフィールド魔法を発動する！デッキから混沌世界一カオス・ワールド発動！」

光也がフィールド魔法を発動すると、試験の時と同じように世界がモノクロになる

「おおすげえ！けどこのままバトルだ！フレイム・ウィングマンで、ライカを攻撃！フレイム・シュート！」

フレイム・ウィングマンの手の口から炎の光線のようなものがライカに向けて出される

「（前の世界でも思っていたが、風属性なのに何故炎？まあ今は気にする場合じゃないな…）混沌の光術師・ライカの効果発動！混沌と名の付いたモンスター一体の守備力を500ポイントアップする！」

「何だって!？」

混沌の光術師・ライカ守備力1700 2200

「更に混沌世界一カオス・ワールドの効果発動！混沌と名の付くモ



ンスターが相手とバトルを行う場合、そのモンスターの攻撃力・守備力は300ポイントダウンする！」

「げええ!?!」

フレイム・ウイングマン 攻撃力2100 1800 守備力1200 900

「400ポイントの反射ダメージだ!」

「くそ…!」

十代LP4000 3600

「更にリバースカードオープン!バック・ラッシュ!自分の守備モンスターが戦闘で破壊されなかった時、相手に800ポイントのダメージを与える!」

「ええ!?!」

ライカによって散らされたフレイム・ウイングマンの炎が十代の頭に当たる

「あち!」

十代LP3600 2800

「そして俺はデッキからカードを一枚ドローする」

「くそ、俺はカードを二枚伏せてターンエンドだ!」

十代LP2800 手札二枚 場E・HEROフレイム・ウィング  
マン E・HEROバブルマン

「俺のターンだ、ドロー！手札から混沌の戦士・ダストを召喚！」

混沌の戦士・ダスト 4 闇属性 戦士族 攻撃力1700 守  
備力1000

「ライカを攻撃表示に変更し、バトル！ダストでフレイム・ウィ  
ングマンを攻撃！」

「攻撃力の低いモンスターで攻撃！？混沌世界一カオス・ワールド  
の効果でも足りないぞ！」

「ダストのモンスター効果発動！このカードが相手モンスターに攻  
撃するとき攻撃力が300ポイントアップする！」

混沌の戦士・ダスト攻撃力1700 2000

E・HEROフレイム・ウィングマン攻撃力2100 1800

「だったら！リバーズカードオープン！ドレイン・シールド！相手  
モンスターの攻撃を無効にしてそのモンスターの攻撃力だけ俺のラ  
イフポイントを回復する！」

「甘い！リバーズカードオープン！カウンター罠！混沌の幻影！自  
分フィールド場に混沌と名の付くモンスターが存在するとき発動可  
能！相手の魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する！更に混沌世  
界一カオス・ワールドが発動している時無効にしたカードは破壊さ

れずに除外する！」

「ええ!？」

十代の発動したドレイン・シールドを霧らしきものが覆つと霧散した。そしてそのままダストがフレイム・ウィングマンに剣を振り下ろす

「く…」

十代LP2800 2600

「更にライカでバブルマンを攻撃だ！」

「リバースカードオープン!速攻魔法、バブル・シャッフル!ライカとバブルマンを守備表示に変更!そしてバブルマンを生け贄に捧げ、手札からE・HEROエツジマンを召喚！」

E・HEROエツジマン 7 地属性 戦士族 攻撃力2600  
守備力1800

「くつ…カードを一枚伏せてターンエンド」

光也LP4000 手札二枚 場 混沌の光術師・ライカ 混沌の戦士・ダスト 混沌世界一カオス・ワールド リバースカード一枚

「俺のターン、ドロー!手札から強欲な壺を発動!デッキからカードを二枚ドロー!E・HEROスパークマンを召喚!そしてスパークガンを装備！」

E・HEROスパークマン 4 光属性 戦士族 攻撃力1600  
守備力1400

「スパークガンの効果発動！混沌の戦士-ダストを守備表示に変更！」

スパークガンから放たれた玉がダストに当たるとダストが防御の構えをとる

「更に手札から魔法カード、ヒーロープレッシャーを発動！相手フィールド場のモンスターの攻撃力が守備力を自分フィールド場のE・HERO一体につき攻撃力を300ポイントダウンさせる！俺は攻撃力を選択！」

「くっ…！」

混沌の戦士-ダスト攻撃力1700 1100

混沌の光術師-ライカ攻撃力1500 900

「行け！スパークマンでライカを、エッジマンでダストを攻撃！スパーク・フラッシュ！パワー・エッジア・タック！」

E・HEROスパークマン攻撃力1600 1300

E・HEROエッジマン攻撃力2600 2300

スパークマンの雷がライカを吹き飛ばし、エッジマンの刃がダストを切り裂く

「ぬ……！」

光也LP4000 2700 2300

「おっしや！ターンエン……」

「エンドフェイズ時にリバースカードオープン！混沌の奇跡！このターン戦闘で破壊された混沌と名の付くモンスターを一体特殊召喚！ただし混沌世界一カオス・ワールドがフィールド上に存在する場合全て特殊召喚する！」

「まじかよ…！すげえ！」

十代LP2600 手札0枚 場 E・HEROエッジマン E・HEROスパークマン スパークガン

「俺のターン、ドロー！手札から魔法カード、強欲な壺を発動！デッキからカードを二枚ドローする！そして2体のモンスターを生け贄に捧げ…現われる！混沌の悪魔・ディアボロ！」

2体のモンスターが光と闇になって消えたかと思うと、両手に光と闇を携えた悪魔だが天使のような神々しさを持ったモンスターが現れた

混沌の悪魔 - ディアボロ 8 闇属性 悪魔族 攻撃力2500  
守備力2000

「ディアボロのモンスター効果！召喚時、手札を一枚捨てる事で相手フィールド場の全てのモンスターの表示形式を入れ替える！」

「攻撃表示でも勝てるのに守備表示だつて…?」

「すぐに分かるさ。ディアボロの効果発動!」

光也が手札を捨てるとディアボロの全体から黒い光が放たれ、エツジマンとスパークマンが防御体制をとる

「行け!ディアボロ!エツジマンを攻撃!混沌闇波!」

E・HEROエツジマン攻撃力2600 2300守備力1800  
1500

ディアボロの右腕が黒く染まったと思うと、そこから出た黒い塊がエツジマンを貫き十代を襲つ。

十代LP2600 1600

「ぐうっ!なんで俺にダメージが!?!」

「ディアボロは貫通能力を持っている。更に混沌世界一カオス・ワールドがフィールドにある時、相手モンスターを破壊し相手フィールドにモンスターが存在する場合このカードはもう一度攻撃ができる!」

「え?それって……」

「ディアボロで二回目の攻撃!混沌光波!」

E・HEROスパークマン攻撃力1600 1300 守備力14  
00 1100

今度はディアボロの左腕が輝いたかと思うとそこから出た光がスパークマンを貫く

十代LP1600 200

「や、やべえ……」

「カードを二枚伏せてターンエンドだ」

光也 LP2300 手札0枚 場 混沌の悪魔・ディアボロ 混沌世界一カオス・ワールド リバースカード一枚

「すげえよ……」

「ん？」

「光也すげえ強よ！すげえ楽しいよこのデュエル！」

一度顔を伏せてあげると、まるで子供のような純粋な顔をした十代がいた

「（純粋だな……まあこれが十代の強さ何だろう）ああ、俺も楽しいぜ十代。俺のライフポイントを1000以上のダメージを与えた奴は久々だ」

「へっ！まだまだここからだ！ドロー！」

十代が今までで一番勢いよくカードをドローする。カードをドローした瞬間、突風が起きたのは俺の気のせいか……？

「手札から魔法カード、ホープ・オブ・フィフス発動！墓地のE・HEROと名の付いたカードを五枚デッキに戻してシャッフルしてカードを二枚、このカード以外手札と自分フィールド上にカードが存在しない場合カード三枚ドロウする！俺はE・HEROフェザーマン、E・HEROバーストレディ、E・HEROバブルマン、E・HEROスパークマン、E・HEROエツジマンの五枚をデッキに戻して三枚ドロウ！手札からバブルマンを守備表示で召喚！デッキからカードを二枚ドロウする！」

「一気に手札を四枚か……」

「更に手札から魔法カード、クロス・シフト発動！フィールドのモンスター一体を手札に戻して手札のモンスター一体を特殊召喚する！バブルマンを手札に戻してバブルマンを特殊召喚！デッキからカードを二枚ドロウ！」

「（手札0枚の状況から一気に五枚に……天よりの宝札や命削りの宝札使ってるわけじゃないのに……ここまでくると）驚き通り越して呆れてきた」

「行くぜ！手札から魔法カード融合発動！手札のスパークマンとフェザーマン、フィールドのバブルマンを融合！E・HEROテンペスター！」

E・HEROテンペスター      8      風属性      戦士族      攻撃力2800  
守備力2800

（こいつって3体融合のわりにあんまし強くないんだよな）



「まだまだ行くぜ手札から魔法カードミラクル・フュージョン発動！墓地のフレイム・ウィングマンとスパークマンを除外し融合召喚！E・HEROシャイニング・フレア・ウィングマン！」

E・HEROシャイニング・フレア・ウィングマン      8      光属性  
戦士族      攻撃力2500      守備力2100

「E・HEROシャイニング・フレア・ウィングマンの効果！墓地のE・HERO一体につき攻撃力を300ポイントアップする！俺の墓地にE・HEROは二体！よって攻撃力は600ポイントアップする！」

E・HEROシャイニング・フレア・ウィングマン攻撃力2500  
3100

「更に手札からフィールド魔法、摩天楼 - スカイスクレーパー - 発動！」

「何だと!?!」

十代がフィールド魔法を発動したことでモノクロの景色は消え去り、変わりに高いビルがたくさん立つ。

「バトル！E・HEROシャイニング・フレア・ウィングマンで混沌の悪魔 - ディアボロを攻撃！シャイニング・シュート！」

「リバーカードオープン！混沌の離空！さらにチェーンして発動！永続罫、混沌に染まる大地！」

光也が永続罫を発動すると地面がモノクロと化す

「な、なんだ!？」

「永続混沌に染まる大地はフィールドでは混沌世界一カオス・ワールドとしても扱う。そして混沌の離空の効果は混沌と名の付いたモンスターが攻撃対象になった時、攻撃したモンスターと攻撃対象となったモンスターを除外して発動する。このカードの除外した相手モンスターのレベル×100ポイント回復する。そして混沌世界一カオス・ワールドがフィールドで表側表示で存在する除外した相手モンスターのレベルの倍×100ポイント回復する!」

シャイニング・フレア・ウイングマンを攻撃を仕掛けようとした瞬間、ディアボロが放った光に包まれると二体とも消え去る

光也LP2300 3900

「だったらテンペスターで光也にダイレクト・アタック!カオス・テンペスト!」

テンペスターの右腕から発射された水が光也を襲う

「くっ……」

光也LP3900 1100

「ターンエンドだ!」

十代 LP200 手札0枚 場E・HEROテンペスター 摩天  
楼・スカイスクレーパー -

「やるな十代……ここまで追い込まれた本当に久々だ！マジで楽し  
くなってきた！ドロー！スタンバイフェイズ時墓地にいる混沌の魂  
の欠片の効果発動！墓地の混沌と名の付いたモンスター一体を除外  
しこのカードを特殊召喚する！俺は墓地の混沌の混沌の光術師・ライカを  
除外し混沌の魂の欠片を特殊召喚！」

光也のフィールドに灰色のメラーストみたいなものが現れる

混沌の魂の欠片 1 闇属性 アンデッド族 攻撃力500 守  
備力500

「いつの間にそんなカードカードを!？」

「ディアボロの時の手札コストだ。更に俺は手札から魔法カード混  
沌の宝札発動！自分フィールド上に混沌世界一カオス・ワールドが  
存在する時のみライフを半分し払い発動する！デッキからカードを  
五枚になるようにドローする！」

「なに!？」

「俺の手札は0枚……よって五枚ドロー！」

光也LP1100 550

「よし手札から魔法カード、テイク・オーバー・5を発動！デッキ  
トップからカードを五枚墓地に送る！除外されているライカの効果  
発動！墓地のカードを一枚除外し特殊召喚！戻れライカ！更にライ  
カの効果が除外されたダスクの効果発動！墓地のカードを一枚除外  
して特殊召喚！戻れライカ！ダスク！」

光とも闇とも判断できない空間からライカとダスクが歩いてくる

混沌の闇術師 - ダスク      4      闇属性      魔法使い族      攻撃力170

0      守備力1500

「十代！」

「何だ？」

「お前には特別にデュエルの新たな可能性を見せてやる！」

「デュエルの新たな可能性……？ 一体どんな事をしてくれるんだ！？」

「ふっ……行くぞ！俺は手札からチューナーモンスター、混沌の調律師 - ライトを召喚！」

光也のフィールドに白いローブを着た小さい老婆が現れる

混沌の調律師 - ライト      2      光属性      魔法使い族      攻撃力100

0      守備力1000

「チューナーモンスター……？何だそれ？」

「ま、ちょっと待ちな。まだ準備が終わってないんでな。混沌に染まる大地の効果を発動！混沌と名の付いたモンスターをこのターンもう一度通常召喚できる。手札からチューナーモンスター混沌の調律師 - ダークを召喚！」

今度はライトのローブが黒色になった老婆が現れる。

混沌の調律師 - ダーク 2 闇属性 魔法使い族 攻撃力1000  
0 守備力1000

「またか！一体どんな効果なんだ！？」

「チューナーは効果と言うよりもカテゴリーみたいなもんだ。行くぜ！これがデュエルの新たな可能性！シンクロ召喚だ！レベル4混沌の光術師 - ライカに、レベル2混沌の調律師 - ライトをチューニング！」

ライカとライトが空を跳んだかと思うと、ライトが2つの光の輪になってライカを包み込む

「うおお！何が起きるんだ！？」

「混沌の光術師、光の混沌を得て混沌の光へと昇華する！シンクロ召喚！混沌の中で輝け！混沌なる光を操りし者 - ライカ！」

口上が終わると光が砕け、そこからコートを脱ぎより輝いたライカが現れる

混沌なる光を操りし者 - ライカ 6 光属性 魔法使い族 攻撃  
力2000 守備力2200

「うおお！何だこれ！？」

「これがデュエルの新たな可能性……シンクロ召喚だ！」

「シンクロ……召喚？」

「そうだ。チューナーとチューナー以外のモンスターを墓地に送り、そのレベルの合計と同じレベルのシンクロモンスターをエクストラデッキから特殊召喚する！それがシンクロ召喚だ！」

「よく分かんねえけど、すげえ！」

「感謝しろよ十代！シンクロ召喚を俺を含めてまだ世界に三人しかいねえからな！」

「おおすげえ！まだあんのか！？」

「ああ、まだ見せてやるよ！レベル4混沌の闇術師 - ダスクにレベル2混沌の調律師 - ダークをチューニング！」

今度はダスクとダークが空を跳び、ダークが2つの闇の輪になりダスクを包み込む

「今度は一体どんなのがでるんだ！？」

「混沌の闇術師、闇の混沌を得て混沌の闇へと昇華する！シンクロ召喚！混沌の中で暗まれ！混沌なる闇を操りし者 - ダスク！」

口上が終わると闇が砕け、コートを脱ぎより暗くなったダスクが現れる。

混沌なる闇を操りし者 - ダスク      6      闇属性      魔法使い族      攻撃力2200      守備力2000

「すげえぜ！けどこっからどうするんだ？どっちも攻撃力足りない

ぞ？」

「このままじゃ攻撃力が足らねえな。混沌なる闇を操りし者・ダスクの効果発動！自分フィールド上の混沌と名の付いたモンスターの攻撃力を500ポイントアップする！」

「何！？」

「闇の混沌曲！」

ダスクが歌を歌うと光也のフィールドの全てのモンスターの攻撃力がアップする

混沌なる闇を操りし者・ダスク攻撃力2200 2700

混沌なる光を操りし者・ライカ攻撃力2000 2500

「それでもまだ足りないぞ？どうするんだ？」

「いや、こんだけありや充分だ。バトル！混沌なる光を操りし者・ライカでテンペスターを攻撃！混沌光魔弾！」

「反撃だ！カオス・テンペスト！」

ライカの杖から放たれた光の魔弾とテンペスターの右腕から放たれた水が激突しあうが、水が魔弾を貫いてライカと光也を襲う

「ぬぐお！」

光也LP550 250

「やられると分かって一体何を……え!？」

十代が疑問に思った瞬間、爆発したライカから出た光がテンペスタ  
ーと摩天楼・スカイスクレーパーを消し飛ばす

「い、一体何が……?」

「混沌なる光を操りし者・ライカがフィールドから離れた時、相手  
フィールドの表側表示のカードを一枚破壊する。ただし混沌世界一  
カオス・ワールドがフィールドに表側表示で存在する場合、一枚で  
はなく相手フィールド上の表側表示のカードを全て破壊する!」

「じゃあ俺のフィールドは……」

「ああ、がら空きだ」

「俺の負けかよ……けどすっげえ楽しかったよ!光也!」

「ああ俺もだ十代。またやろうぜ」

「ああ!」

「行くぜ!混沌なる闇を操りし者・ダスクで十代にダイレクト・ア  
タック!混沌闇魔弾!」

ダスクの杖から出た闇の魔弾が十代のライフを0にする

「うあ!」



十代LP2000

ターン：3 『混沌』対『HERO』 調律の力（後書き）

混沌の戦士 - ダスト 4 闇属性 戦士族 攻撃力1700 守備力1000

このカードのフィールドでの属性は「光」としても扱う

このカード相手モンスターを攻撃する場合、ダメージステップの間このカードの攻撃力は300ポイントアップする

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合このカードが戦闘で破壊したモンスターの効果は無効になる

混沌の奇跡

通常罫

このターン戦闘で破壊された混沌と名の付くモンスターを一体特殊召喚する

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合このターン戦闘で破壊された混沌と名の付くモンスターを全て特殊召喚する

混沌の悪魔 - デイアボロ 8 闇属性 悪魔族 攻撃力2500  
守備力2000

このカードのフィールドでの属性は「光」としても扱う

このカードは特殊召喚できない

このカードが召喚された時手札を一枚捨てることで相手フィールド上の全てのモンスターの表示形式を変更する

守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が越えていれば、その数値だけ相手に戦闘ダメージを与える

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、相手モンスターを戦闘で破壊し相手フィールド上にモン

スターが存在する場合、続けてもう一度だけ攻撃ができる

## 混沌の離空

### 通常罫

混沌と名の付いたモンスターが攻撃が攻撃対象になった時、攻撃したモンスターと攻撃対象となったモンスターを除外して発動する  
このカードの効果で除外した相手モンスターのレベル×100ポイント、自分ライフを回復する

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、除外した相手モンスターのレベル×100ポイント、自分ライフを回復する

## 混沌に染まる大地

### 永續罫

このカードはフィールドでは混沌世界一カオス・ワールドとしても扱う

混沌と名の付いたモンスターは一ターンに通常召喚できる

混沌の魂の欠片      1      闇属性      アンデッド族      攻撃力500      守備力500

このカードはフィールドでは「光」としても扱う

自分ターンのスタンバイフェイズ時このカードが墓地に存在する場合、墓地の混沌と名の付いたモンスターを除外することでこのカードを墓地から特殊召喚できる

## 混沌の宝札

### 通常魔法

自分フィールドに混沌世界一カオス・ワールドが表側表示で存在する場合のみライフを半分支払い発動できる

デッキからカードを五枚になるようにドロウする

混沌の調律師 - ライト      2      光属性      魔法使い族      攻撃力1000  
0      守備力1000

このカードは「闇」としても扱う      このカードを手札から捨てるこ  
とで一度だけ戦闘ダメージを0にする

この効果は相手ターンでも使える

混沌の調律師 - ダーク      2      光属性      魔法使い族      攻撃力1000  
0      守備力1000

このカードは「光」としても扱う      このカードを手札から捨てるこ  
とで一度だけ効果ダメージを0にする

この効果は相手ターンでも使える

混沌なる光を操りしもの - ライカ      6      光属性      魔法使い族      攻  
撃力2000      守備力2200

このカードのフィールドでの属性は「闇」としても扱う

一ターンに一度自分フィールド上の混沌と名の付いた全てのモン  
スターの守備力をエンドフェイズ時まで500ポイントアップする事  
ができる

この効果は相手ターンでも使える

このカードがフィールドを離れるとき相手フィールド上の表側表示  
のカードを一枚破壊する。混沌世界一カオス・ワールドが自分フイ  
ールド上に表側表示で存在する、相手フィールド上の表側表示のカ  
ードを全て破壊する

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在  
する場合、墓地のカードを二枚除外することで除外されているこの  
カードを特殊召喚する

混沌なる闇を操りしもの - ダスク 6 闇属性 魔法使い族 攻撃力2200 守備力2000

このカードのフィールドでの属性は「光」としても扱う

一ターンに一度自分フィールド上の混沌と名の付いた全てのモンスターの攻撃力をエンドフェイズ時まで500ポイントアップすることができる

この効果は相手ターンでも使える

このカードがフィールドを離れるとき相手フィールド上の裏側表示のカードを一枚破壊する。混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する、相手フィールド上の裏側表示のカードを全て破壊する

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、墓地のカードを二枚除外することで除外されているこのカードを特殊召喚する

ターン：4 『混沌』対『アンデッド』 別世界の転生者？（前書き）

新しい転生者の登場です！ただし光也とは少し違います

ターン：4 『混沌』対『アンデッド』 別世界の転生者？

「いや〜光也マジで強いな！」

「俺のライフがあそこまで削られたのは久々だ。お前だつて強いさ十代」

デュエルを終えた光也と十代はお互いを誉めあっていた

「あ、そうだ！光也はシンクロ召喚をどこで手に入れたんだ！？」

「ああ、それは今度教えてやるよ」

「ええ〜、ケチケチせず今教えてくれよ〜」

だだをこねる十代の姿はまるで子供のようだ

「はは、子供っぽいのもお前の魅力だが我慢も大切だぜ？」

「俺はガキじゃねーよ！〜」

「なら我慢できるだろう？」

「おう！〜」

（単純……マジでガキだな）

「兄貴〜、どこに居るんすつか〜？」

「ああ！翔！ここだ！」

「ああ、そこっすか。いきなり走りださないでほしいっす！」

走ってきたのは小柄で丸眼鏡をかけた少年、丸藤翔だった

「翔！遅かったな！」

「兄貴の足が速いんっすよ！って兄貴その人は！」

「ああ！翔が教えてくれた光也だ！」

どつりで遅刻したのに俺のことを知っているわけだ

「うわ！クロノス先生を1ターンキルした夜神光也くんっすか！」

あ、僕の名前は丸藤翔っす！翔って読んでください！」

「俺も光也で構わん」

「分かったっす光也くん！」

「なあ翔！光也とデュエルしてみるよ！光也すげえ強いぞ！」

「あ、兄貴。僕なんか光也くんと戦っても勝てるわけないっす！やるだけ無駄っす！」

その言葉を聞いた瞬間、俺は翔の頭に拳骨を落とした

「っつゝゝゝゝゝ！？痛いっす！」



「お、おい翔に何するんだよ!？」

十代が何か言ってるが、それを無視して俺は翔に話す

「お前アホか？無駄なデュエル？無駄なデュエルなんてねえ！勝ちも負けも、それは経験となって積み重なっていく！負けることを恐れてたら一生勝てねえよ！」

俺は前の世界からいたときから、翔のこういった性格は気に食わなかった。確実に勝てるデュエルなんてない。それをこいつは分かっている

「う……でも」

「でももくそもねえ！お前の根性矯正してやる！」

そう言っただ俺は翔の襟をつかんで引き摺って行く

「ど、どこに連れて行くんすつか!？」

「校内のデュエル場だ。そこの方が人目が多いだろう?」

「え!?!ちよつと!?!兄貴!?!助けて!?!」

「俺も見学させてもらっていいか?」

「別に構わんぞ」

「よっしや!」

「兄貴!？」

翔の言葉を見殺して俺はデュエル場あるであろう場所に向かって行く

デュエル場…

「ここならいいだろう」

「いた!」

そういつて、俺は翔を放す。何か言ったようだが気にしない

「うづう、ずっと引き摺られたから尻が痛いっす」

「泣き言言う暇あったらとっととデュエルディスクを構えろ。文句はその後で聞いてやる」

「うづう、分かった! やってやるっす!」

そういつて多少やけになったが、デュエルディスクを構える

「デュエル…」「お前等そこで何をしている!？」「ん？」

いきなり声が聞こえてきたのでそちらを向くと、青いコートを着た連中—オベリスク・ブルーの男たちがいた

「ここはエリートである、俺たちオベリスク・ブルーのみが使える神聖な場所!」

「ドロップアウトであるオシリス・レッドとたかが高校入学程度の

ラー・イエローがそこでデュエルするなどおこがましい!」

……鬱陶しい……

「うぜえなてめえら……先に貴様等から潰すか?」

「なんだと!?!」

「何言ってるんすか光也くん!?!」

「貴様! たかがラー・イエローが……」

「うるせえんだよ。ハエが」

「貴様! 言わせておけば……デュエルしろ! 叩き潰してやる!」

「いいぜ。潰れるのは貴様等だが……」

「俺も混ぜろよ光也!」

「このくそどもが……デュ」

「落ち着きたまえ諸君」

一触即発の状況に誰か割り込んできやがった。声が出た方を見ると鳥みたいな頭をした男がこちらを見下ろしてた

「そいつらはまぐれとは言え、あのクロノス教諭を倒す程の相手。お前等では手に負えん」

「「実力だろ？」」

「貴様等……この俺を誰だと思っている？」

「そうだこの人はオベリスク・ブルーの中でもエリート中のエリート！」

「中学時代、あいつを除けば負けなしだった人だ！」

「ふうん、あいつって僕のこと？」

「また……な!？」

俺が声のした方を見ると、予想外の人物がそこにいた。BLEACH  
Hで復讐のために大戦な人を騙し続けた男、市丸ギン

「僕の名前は市丸ギンや。よろしゅうな」

「あ、ああ俺の名前は夜神光也だ」

「俺は遊城十代！」

「貴様等……俺を無視なんぞしおって……」

「あなた達！何をしてるの！」

また誰か割り込んできたと思ったら原作キャラクターである天上院  
明日香がいた

「ん？明日香ちゃんやないか？相変わらず可愛ええな」

「お世辞はいらないわ市丸くん」

どうやら明日香と万丈目は市丸ギンと知り合いみたいだな

「ん？明日香ちゃん？その可愛い娘は誰や？」

「彼女は高校入学してきた人よ。名前は……」

「八神リインフォースだ」

こいつが受験番号二番の八神リインフォースか……っーか声が明日香とそっくりだな

「明日香ちゃんと声がそっくりやな」

「そんなことはどうでもいいわ。そろそろ寮で歓迎会が始まる時間よ」

「早く寮に帰った方がいいぞ」

……目を閉じていれば同じ人間が喋っているようにも思える

「ちっ……勝負はお預けだ！お前達は次の機会に片付けてやる……引き上げるぞ！お前ら！」

「はい！万丈目さん！」

そういつて鳥頭は取り巻きを連れて帰っていく

「あまりあの連中に関わらない方がいいわよ。目を付けられるとろくなことにならないわよ」

「忠告一応感謝するよ。じゃあな」

そういつて俺は自分の寮に戻る。

イエロー寮

イエロー寮の歓迎会は外でカレーパーティーだった。さすがにオシリス・レッドみたいな貧相な歓迎会はいやだ

「うまいなこのカレー……いくらでも食べそうだ」

「おい！」

「ん？」

俺が声が聞こえてきた方に向けると三沢大地と資料でみた青髪の少年ーブルーノ・アンチノミーがそこにいた

「三沢か……なんだ？」

「いや君と話がしたくて……彼も君に興味があったみたいで」

「やあ、僕はブルーノ、ブルーノ・アンチノミー。ブルーノって呼んでくれ」

「俺は夜神光也だ。俺も光也で構わないぜ」

こいつのデュエルはレベルの低いモンスターを大量展開して攻撃力を強化してやるやり方。しかし気になるのはこいつが使っているT Gと言うモンスター……どこかで聞いた事がある……どこだ？

「君といろいろ話がしたくてね……」

「いいぜ。お前らとだったら楽しく語り合えそうだ」

そして俺達はカレーを食いながら、デュエルの戦略について語り合った

イエロー寮、自室

「ん……？しまった寝てたようだな。あん？メールが来てる？」

送り主は鳥頭からだった。簡単には言えばアンティールで勝負しろという内容だった

「……時間は30分程過ぎてるが一応行ってみるか」

校舎前

「いいや、今のデュエルは俺の勝ちだぜ」

そう言っただけは死者蘇生のカードをリインフォースや明日香達に見せていた

「万丈目とやったのか十代？」

「光也！お前来てたのか！？」

「たった今な。メールにさっき気が付いてな」

「そっぴや万丈目が、あいてはまだ来てないのかと言っていたな」

「見逃してしまっただらしいな……来て無駄だったらしいな……」

「それやったら僕とデュエルせえへんか？」

「な!？」

声が聞こえたので振り替えるといつのまにかそこには、市丸ギンがいた

「いつの間にいたんすつか!？」

「君が万丈目くとデュエルしたあたりや……息殺してずっとまっとなつたで」

「俺をか？」

「そっぴや、十代くんも興味深いけど君ほどやない。でどっぴや?僕とデュエルしてくれるか？」

「いいぜ!あんたの実力!見てみたいしな!」

俺は迷うことなく返答した

「ほな観客のみんなは離れてな」



ギンの言葉に従って離れるとき十代が激励をくれる

「頑張れよ光也！」

「ああ！」

みんなが離れたところで俺とギンは向かいあう

「デュエル！」

「先行は俺だ！ドロー！」

相手のデッキは分からない。だからといっても先手は譲らない

「俺は混沌の守護者・ディフェスを守備表示で召喚！」

光也のフィールドに全身を隠す程大きな盾を持った男があらわれる

混沌の守護者・ディフェス      4      光属性      戦士族      攻撃力1000  
0      守備力2000

「更に手札からフィールド魔法、混沌世界一カオス・ワールドを發動！」

光也がフィールド魔法を發動すると、お馴染みとなったモノクロの世界があらわれる

「カードを二枚伏せてターンエンドだ」

光也LP4000      手札二枚      場      混沌の守護者・ディフェス      伏

せカード二枚

「僕のターンやな、ドロー！強欲な壺を発動、デッキからカードを二枚ドローするわ……………」

カードを二枚ドローした瞬間ギンが黙る。微妙なカードだったのだろうか？

「手札から永続魔法、ミイラの呼び声を発動するわ」

「アンデッドデッキか！チエーンして発動！サイクロン！ミイラの呼び声を破壊する」

サイクロンがミイラの呼び声を吹き飛ばす

「運がないかと思っただらついとるわ……………一枚目のミイラの呼び声を発動するわ」

「二枚目だと!?!」

「強欲な壺で二枚ともミイラの呼び声とはついてへんと思っただらサイクロンやったんか……………僕はミイラの呼び声の効果を発動。自分フィールド上にモンスターにがおらへんから手札からモンスターを特殊召喚、きな真紅眼の不死竜」

ギンのフィールドに真紅眼の黒竜の肉体が腐ったようなモンスターがあらわれる

真紅眼の不死竜      7      闇属性      アンデッド族      攻撃力2400  
守備力2000

「な、なんすつかあれ!？」

「まるで真紅眼の黒竜がアンデッドになったようなモンスターだ……」

「その通りやでリインフォースちゃん。これは真紅眼の黒竜がアンデッドになったモンスターや。更に僕は馬頭鬼を通常召喚」

馬頭鬼 4 地属性 アンデッド族 攻撃力1700 守備力800

「バトルや。真紅眼の不死竜で混沌の守護者・ディフェスを攻撃や!ダーク・ロット・ブレス!」

真紅眼の不死竜 攻撃力2400 2100 守備力2000 1700

真紅眼の不死竜が放つブレスは軌道上にあるもの腐らせながら行くが、混沌の守護者・ディフェスはそれを受けて耐えきる

「ん?そのモンスター、戦闘耐性もちかいな?」

「そうだ!混沌の守護者・ディフェスは混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、1ターンに一度戦闘では破壊されない!」

「うゝん馬頭鬼ではそいつは破壊できへんな……カードを二枚伏せてターンエンドや」

ギンLP4000 手札一枚 場 馬頭鬼 真紅眼の不死竜 ミイ

ラの呼び声 伏せカード二枚

「俺のターン、ドロー！」

「そや！言い忘れてたことがあったんや！」

「ん？」

「実は昼間の君と十代とのデュエル隠れて見取ったんや」

「なんだと…？」

「そうや、だから使ってほしいんや。デュエルの新たな可能性…シンクロ召喚を！」

「シンクロ召喚？聞いた事がないわね……？」

「シンクロ召喚って何ですか兄貴？」

「見てれば分かるって。きっと驚くぞ」

(シンクロ召喚……だと！?)

「行くぜ…俺は手札から、チューナーモンスター混沌の調律師・ライトを通常召喚！」

混沌の調律師・ライト 2 光属性 魔法使い族 攻撃力1000  
0 守備力1000

「きた！チューナーモンスター！」

「チューナーモンスター……一体どんなモンスターっすか？」

「今見せてやる！レベル4混沌の守護者・ディフェスにレベル2混沌の調律師・ライトをチューニング！」

「「チューニング!?」」

ディフェスとライトが空を飛び、ライトが2つの光の輪となりディフェスを包み込む

「混沌の守護者、混沌なる光の加護を得て守護神へと生まれ変わる！シンクロ召喚！全てを守れ！混沌の守護神・ディフェス！」

口上が終わり光が碎けると全体的により大きくなり、盾にトゲが付いたディフェスがいた

混沌の守護神・ディフェス      4      光属性      戦士族      攻撃力2000  
0      守備力3000

「な、何が起きたんすっか!?!」

「フィールド上のチューナーモンスター一体とチューナー以外のモンスターを墓地に送りそのレベルの合計と同じシンクロモンスターをエクストラデッキ……まあ融合デッキのことだな。そこから特殊召喚する……それがシンクロ召喚だ！」

「長い解説、ありがとっす」

「確かにすごいけど、守備表示じゃなんもでけへんで？」

「普通ならそうだが、混沌の守護神・ディフェスは守備表示でも攻撃ができる！」

「なんやて!？」

「行くぜ!ディフェスで馬頭鬼を攻撃!混沌盾圧！」

馬頭鬼攻撃力1700 1400守備力800 500

ディフェスが巨大な盾で馬頭鬼を押し潰す

「くっ……これは予想外やで……! (僕のリバースカードの一枚は聖なるバリアーミラーフォース……けどディフェスは守備表示で攻撃ができる……発動しても無駄やな)」

ギンLP4000 3400

「俺はカードを一枚伏せてターンエンドだ」

光也LP4000 手札一枚 場 混沌の守護神・ディフェス 伏せカード二枚

「うん。困ったわ……ドロー。カードを一枚伏せてターンエンドや」

ギンLP3400 手札一枚 場 真紅眼の不死竜 ミイラの呼び声 伏せカード三枚

「俺のターン、ドロー!手札から魔法カード混沌の施し発動を発動

「デッキからカードを二枚ドロークし手札から混沌と名の付くモンスターを一枚除外。ただし混沌世界・カオス・ワールドがフィールドに存在する場合更にもう一枚ドロークする！」

「悪いけど止めさせてもらっわ。チェーンして発動！永続罫王宮の鉄壁！」

「何!?!」

「なんだ？あのカード、翔は知ってるか？」

「僕も知らないっす……」

「このカードはな、フィールドに存在する限り互いにカードを除外できへんようになるんや」

「じゃあ光也の魔法カードは……」

「……混沌の施しの効果でカードを除外できなかったとき、俺は手札を全てデッキに戻してシャッフルする……ターンエンドだ」

光也は手札を全てデッキに戻し、ターンを終了する

光也LP4000 手札0枚 場 混沌の守護神・ディフェス 伏せカード二枚

「うっん……ドローク。ミイラの呼び声を墓地に送り手札から魔法カード、魔力炉を発動。デッキからカードを二枚ドロークするわ」

「くっ……この状況でこのハンド差はきついな……」

「おっしや！手札からフィールド魔法、アンデッドワールドを発動  
や！」

「なんだと!？」

ギンがフィールドを張り替えたことで混沌世界一カオス・ワールド  
が消え、地面が大量の頭蓋骨で埋もれた恐ろしい風景に変わる

「な、なんすつかこのフィールド魔法!？めっちゃ怖いっす!」

「アンデッドワールドはフィールドと墓地のモンスターを全てアン  
デッド族モンスターにするカードや……更にアンデッド族モンス  
ター以外は生け贄召喚することはでけへんで」

「そんな!？これじゃ光也くん上級モンスターを……」

(チツ……！俺のデッキの上級モンスターは特殊召喚することは  
できない……あのカードの召喚条件も墓地のカードを除外すること…  
…実質俺はシンクロ召喚でしか上級モンスターを召喚できない)

「更に魔法カード、永続魔法、フィールドバリアを発動!このカー  
ドがある限りフィールド魔法を破壊する事も……フィールド魔法を  
発動することもでけへん。ボクはターンエンドや」

ギンLP3400 手札一枚 場 真紅眼の不死竜 伏せカード二  
枚 アンデッドワールド フィールドバリア 王宮の鉄壁

「これはまずいな……ドロー!手札から混沌の光術師・ライカを守  
備表示で召喚!ターンエンドだ」



混沌の光術師・ライカ 4 光属性 魔法使い族 攻撃力150  
0 守備力1700

光也LP4000 手札0枚 場 混沌の守護神・ディフェス 混沌の光術師・ライカ 伏せカード二枚

「僕のターン、ドロ。ゾンビ・マスターを守備表示で召喚。更に手札から魔法カード命削りの宝札でデッキから手札が五枚になるようにカードをドロするわ。ドロ！手札から魔法カード、愚かな埋葬発動や！デッキからゴブリンゾンビを墓地に送るわ。更にゾンビ・マスターの効果発動！手札のモンスター一体を墓地に送り墓地のレベル4以下のアンデッド族モンスターを特殊召喚する！」

「その効果にチェーンして発動！カウンター罨混沌の裁き！自分フィールド上に混沌と名の付くモンスターが存在する場合発動できる！相手のモンスター効果の発動を無効にし破壊する！」

「チェーンして発動！カウンター罨ツタン仮面！アンデッド族モンスター一体を対象とする魔法、罨カードを一枚破壊する！」

「なに！？」

ゾンビ・マスターめがけて落ちた雷は巨大なツタンカーメンマスクに防がれ当たらなかった

「混沌の裁きは無効……よってゾンビ・マスターの効果は有効や。効果で馬頭鬼を墓地に送ってゴブリンゾンビを蘇生。ターンエンドや」

ギンLP3400 手札二枚 場 真紅眼の不死竜 ゾンビ・マス  
ター ゴブリンゾンビ アンデッドワールド 王宮の鉄壁 フィー  
ルドバリア 伏せカード一枚

「何……！？攻撃はしないのか？見る限りチャンスだと思うのだが  
……？」

「そうね……市丸くんがリバースカードを警戒してるのならばじめ  
から攻撃してないはずよ？」

「わいが警戒しとるんわりバースカードやない。ディフェスや」

「ディフェス……？」

「守護神って名前がついとるんや……攻撃誘導能力があってもおか  
しくない……どうや？」

「……正解だ。混沌の守護神・ディフェスは相手モンスターの攻  
撃をこのモンスターに変更する事ができる……」

「ほらな？」

「だけどお前が俺のモンスターを攻撃できない事実はかわらねえ……  
俺のターン、ドロ！混沌の光術師・ライカをリリースし、手札  
から魔法カード、混沌の調和を発動！」

ライカが光になって消えるとそこには表裏が白黒のオセロみたいな  
配色のコインがそこに現れた

「なんすつかあれ？」

「オセロ……?」

「混沌の調和はコイントスで効果が決まる……白なら俺が相手の手札と同じ枚数になるようにドロ、黒なら相手は俺の手札と同じ枚数になるようドロする……混沌世界一カオス・ワールドがあつたらコイントスせずに決める事ができるんだが……構わん!コイントスだ!」

コインが打ち上がられ下に落ちると黒が上向きに落ちていた

「黒だ……よってお前は俺と同じ……つまり手札を全て捨てろ」

「僕の手札が……まあむしろ嬉しいけど」

「なに……?これは!?!」

ギンの墓地から影がでてそれが形となりモンスターとなった

闇より出でし絶望      8      闇属性      アンデッド族      攻撃力2800  
守備力3000

「ちっ……逆に不利になっちまったな……ディフェスでゾンビ・マスターを攻撃!混沌盾圧!」

ディフェスが巨大な盾でゾンビ・マスターを押し潰すも、守備表示なのでギンにダメージは通らない

「ターンエンドだ」

光也LP4000 手札0枚 場 混沌の守護神・ディフェス 伏  
せカード一枚

「僕のターン、ドロー！手札から永続魔法、一族の結束を発動！墓地に存在する種族が一種類のみの場合、その種族と同じ種族の自分フィールド上のモンスターの攻撃力を800ポイントアップする！」

「一族の結束……！やっかいなものを！」

「800ポイントもアップだと!？」

(一族の結束……私のデッキに欲しい……)

真紅眼の不死竜攻撃力2400 3200

闇より出でし絶望攻撃力2800 3600

ゴブリンゾンビ攻撃力1100 1900

「ディフェスの守備力を上回れたか……」

「更に墓地の馬頭鬼を一体除外してゾンビ・マスター特殊召喚！一族の結束の効果で攻撃力がアップや！」

ゾンビ・マスター攻撃力1800 2400

「ゴブリンゾンビを攻撃表示に変更してバトルや！真紅眼の不死竜で攻撃！ダーク・ロット・ブレス！」

真紅眼の不死竜が再び全てを腐らせるブレスを放ちディフェスを腐

らせる

「真紅眼の不死竜の効果！戦闘でアンデッド族モンスターを破壊したとき、そのモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する！」

「え！？光也のモンスターって戦士族じゃ？」

「アンデッドワールドの効果で俺のモンスターはアンデッド族になっている……だが無理だ。混沌の守護神・ディフェスはシンクロ召喚か混沌と名の付くカード効果でしか特殊召喚できない」

「まあええ、ゴブリンゾンビでダイレクトアタックや！」

「ぬおー！」

光也LP4000 2100

「ゴブリンゾンビの効果発動や。デッキの一番上のカードを墓地に送りな」

「俺のデッキの一番上のカードは……命削りの宝札」

「ホンマついとるわ。けどこれでしまいや。ゾンビ・マスターでダイレクトアタック！」

「リバーズカードオープン！混沌の奇跡！このターン戦闘で破壊された混沌と名の付くモンスターを特殊召喚する！蘇れ！ディフェスの守護神・ディフェス！」

地面から灰色の穴があきディフェスが光也を守るように現れる

「ゾンビ・マスターの攻撃は中断や。闇より出でし絶望でディフェスを攻撃や」

闇より出でし絶望の爪がディフェスを切り裂く

「くっ……まずいな……」

「ターンエンドや」

ギンLP3400 手札0枚 場 真紅眼の不死竜 闇より出でし絶望 ゾンビ・マスター ゴブリンゾンビ アンデッドワールド  
フィールドバリア 一族の結束 伏せカード一枚

「（俺の手札は0枚……このドローが俺の勝敗を決める……デッキよ……俺の思いに答えてくれ……）俺のターン……ドロー！」

デッキから力強く引き抜いたカードは一瞬光ったように見えた。そして引いたカードは……

「手札から魔法カード、強欲な壺を発動！」

「ここでドロー加速やと！？素直に驚いたわ」

「デッキからカードを二枚ドロー！手札から混沌の闇術師・ダスクを召喚！更にダスクを生け贄に捧げ魔法カード、混沌の暗闇を発動！」

「……このカードは、確か試験の時使っていたカード……」

「このカードの効果は、フィールド上の魔法・罨カードを全て墓地に送る」

「墓地に送るやと！？それじゃあフィールドバリアの効果も……」

「そつだ。意味をなさない」

光也の言葉を証明するようにフィールドバリアに守られているアンデッドワールドも闇に沈み込む

真紅眼の不死竜攻撃力3200 2400

闇より出でし絶望攻撃力3600 2800

ゴブリンゾンビ攻撃力1900 1100

ゾンビ・マスター攻撃力2600 1800

「そしてお互い墓地に送った枚数だけドローする……五枚ドローだ！」

「魔法・罨を除去した上にカードを最大十枚までドローする……鬼畜なカードやな」

「なんともいえ……ドロー！俺は墓地の混沌と名の付いた光属性モンスター、ライカと闇属性モンスター、ダスクを除外し、手札からモンスターを特殊召喚！」

「光属性モンスターと闇属性モンスターを除外だって！？どんなモンスターなんだ！？」

「そんな召喚条件を持つモンスターなんて……まさか!？」

「混沌なる光と闇の魂を生け贄に捧げ現れよ!混沌の騎士王・キング・カオス・ナイト!」

光也のフィールドに開闢の使者・カオス・ソルジャー - を思わせる姿を持ったモンスターが現れる。しかし盾はなく黒と白の双剣を持ちカラーリングも青と金ではなく、黒と白になっている

混沌の騎士王・キング・カオス・ナイト      8      闇属性      戦士族  
攻撃力3000      守備力2500

「あれは……カオス・ソルジャー - 開闢の使者 - !? いや色が違うか……」

「それに盾もないわ。持つてるのは黒と白の双剣ね」

「こいつはカオス・ソルジャー - 開闢の使者 - を混沌シリーズ用にエラッタしたもの……世界でたった一枚のカードだ」

「すごいやん……いつたいてどこで手に入れたん?」

「また今度教えてやるよ……バトルだ!混沌の騎士王・キング・カオス・ナイトで闇より出でし絶望を攻撃!混沌双破斬!」

「ありや……」

「ダメージステップ時手札からクワードのモンスター効果発動!」



「クワード？」

「聞いた事がないモンスターね……？」

「クワードはオネストの効果で闇属性になったモンスター……相手モンスターの攻撃力分アップする」

カオス・キング・ナイトの背中にクワードの翼である黒色の翼が生え、闇より出でし絶望を横に一閃する

混沌の騎士王 - キング・カオス・ナイト 攻撃力 3000 5800

ギンLP 3400 400

「くっ……けど僕のライフはまだ残る……」

「更に相手モンスターを破壊した時、続けてもう一度だけ攻撃ができる！」

「あ……こりゃどうしようもないわ。まあええわ。充分楽しめたわ」

「ああ……俺もだ……混沌の騎士王 - キング・カオス・ナイトで真紅眼の不死竜を攻撃！時空突刃・混沌双破斬！」

翼の生えたカオス・カオス・ナイトが真紅眼の不死竜を縦に一閃する

ギンLP 400 0

「あゝ、負けたわ。久々に負けたわ！」

「そうか……じゃあ俺は帰るぜ……眠くなってきた……」

「そうか……無理言っつてすまん……ほなおやすみ」

そう言っつて全員が各々の寮に帰っつていくがギンが去りぎわに

「……この世界に転生して十数年……つまらんことばっかやと思っ  
とっただけ、これなら退屈せぜにすみそっや……」

呟いていたのを光也は聞いていなかった

ターン：4 『混沌』対『アンデッド』 別世界の転生者？（後書き）

混沌の守護者 - デイフェス 4 光属性 戦士族 攻撃力1000  
0 守備力2000

このカードのフィールドでの属性は「闇」としても扱う  
自分フィールド上の混沌となつたモンスターが攻撃対象に選択された時、このカードに攻撃対象を変更することができる  
混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、このカードはターンに一度戦闘では破壊されない

混沌の守護神 - デイフェス 6 光属性 戦士族 攻撃力2000  
0 守備力3000

このカードのフィールドでの属性は「闇」としても扱う  
このカードは守備表示の状態でも攻撃ができる  
守備表示で攻撃する場合は攻撃力の数値を適用してダメージ計算を行う

自分フィールド上の混沌となつたモンスターが攻撃対象に選択された時、このカードに攻撃対象を変更することができる  
混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、このカードはカード効果によってフィールドから離れない

混沌の施し

通常魔法

デッキからカードを二枚ドロし手札から混沌と名の付いたモンスター一体を除外する  
混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合更にもう一枚ドロする

このカードの効果でカードを除外できなかった場合、手札を全てデッキに戻す

魔力炉

通常魔法

自分フィールド上の表側表示の永続魔法カードを一枚墓地に送り発動する。デッキからカードを二枚ドロウする

混沌の裁き

カウンター罫

自分フィールド上に混沌と名のつくモンスターが表側表示で存在する場合のみ発動出来る

相手モンスター効果の発動を無効にして破壊する

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、無効にしたカードを破壊せずに除外する

混沌の調和

通常魔法

自分の手札が相手より少ない場合、自分フィールド上の混沌と名の付いたモンスターをリリースして発動できる

コイントスをして以下のどちらかの効果を発動する。混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、コイントスせずにどちらかの効果を選択して発動する

表：相手の手札と同じ枚数になるようにデッキからカードをドロウする

裏：相手は自分の手札と同じ枚数になるように手札をランダムに捨てる

混沌の騎士王 - キング・カオス・ナイト      8      闇属性      戦士族

攻撃力3000      守備力2500

このカードのフィールドでの属性は「光」としても扱う

このカードが戦闘で相手モンスターを破壊したとき、続けてもう一度だけ攻撃ができる

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、一ターンに一度相手フィールド上のモンスター一体を外することができる。この効果を発動したターンこのカードは攻撃できない

## オリジナルカード集その1(前書き)

今まで出てきたオリジナルシリーズのカードをまとめてみました

## オリジナルカード集その1

### オリジナルカード一覧

初登場ターン：1

混沌の闇術師 - ダスク

4 闇属性 魔法使い族 攻撃力1700 守備力1500

このカードのフィールド上での属性は「光」としても扱う

一ターンに一度自分フィールド上の混沌と名の付いたモンスター一体の攻撃力を500ポイントアップすることができる。この効果は相手ターンでも使える

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在しこのカードが除外されてる時、自分の墓地のカードを一枚除外する事でこのカードを特殊召喚する事ができる

初登場ターン：1

混沌の光術師 - ライカ 4 光属性 魔法使い族 攻撃力150

0 守備力1700

このカードのフィールドでの属性は「闇」としも扱う

1ターンに1度混沌と名の付いたモンスター一体の守備力をターンエンドフェイズ時まで500ポイントアップすることができる。この効果は相手ターンでも使える

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在しこのカードが除外されてる時、自分の墓地のカードを一枚除外する事でこのカードを特殊召喚する事ができる

初登場ターン：3

混沌の戦士・ダスト 4 闇属性 戦士族 攻撃力1700 守備力1000

このカードのフィールドでの属性は「光」としても扱う

このカード相手モンスターを攻撃する場合、ダメージステップの間このカードの攻撃力は300ポイントアップする

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合このカードが戦闘で破壊したモンスターの効果は無効になる

初登場ターン：3

混沌の悪魔・ディアボロ 8 闇属性 悪魔族 攻撃力2500 守備力2000

このカードのフィールドでの属性は「光」としても扱う

このカードは特殊召喚できない

このカードが召喚された時手札を一枚捨てることで相手フィールド上の全てのモンスターの表示形式を変更する

守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が越えていれば、その数値だけ相手に戦闘ダメージを与える

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、相手モンスターを戦闘で破壊し相手フィールド上にモンスターが存在する場合、続けてもう一度だけ攻撃ができる

初登場ターン：3

混沌の魂の欠片 1 闇属性 アンデッド族 攻撃力500 守備力500

このカードはフィールドでの属性は「光」としても扱う

自分ターンのスタンバイフェイズ時このカードが墓地に存在する場



合、墓地の混沌と名の付いたモンスターを除外することでこのカードを墓地から特殊召喚できる

初登場ターン：3

混沌の調律師 - ライト      2      光属性      魔法使い族      攻撃力1000  
0      守備力10000

このカードのフィールドでの属性は「闇」としても扱う このカードを手札から捨てることで一度だけ戦闘ダメージを0にする この効果は相手ターンでも使える

初登場ターン：3

混沌の調律師 - ダーク      2      光属性      魔法使い族      攻撃力1000  
0      守備力10000

このカードのフィールドでの属性は「光」としても扱う このカードを手札から捨てることで一度だけ効果ダメージを0にする この効果は相手ターンでも使える

初登場ターン：4

混沌の守護者 - デイフェス      4      光属性      戦士族      攻撃力1000  
0      守備力20000

このカードのフィールドでの属性は「闇」として扱う  
自分フィールド上の混沌と名のついたモンスターが攻撃対象に選択された時、このカードに攻撃対象を変更することができる

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、このカードは一ターンに一度戦闘では破壊されない

#### 初登場ターン4

混沌の騎士王・キング・カオス・ナイト 8 闇属性 戦士族  
攻撃力3000 守備力2500

このカードのフィールドでの属性は「光」としても扱う

このカードが戦闘で相手モンスターを破壊したとき、続けてもう一度だけ攻撃ができる

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、一ターンに一度相手フィールド上のモンスター一体を除外することができる。この効果を発動したターンこのカードは攻撃できない

#### 初登場ターン：3

混沌なる光を操りしもの・ライカ 6 光属性 魔法使い族 攻撃力2000 守備力2200

このカードのフィールドでの属性は「闇」としても扱う

一ターンに一度自分フィールド上の混沌と名の付いた全てのモンスターの守備力をエンドフェイズ時まで500ポイントアップすることができる

この効果は相手ターンでも使える

このカードがフィールドを離れるとき相手フィールド上の表側表示のカードを一枚破壊する。混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、相手フィールド上の表側表示のカードを全て破壊する

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、墓地のカードを二枚除外することで除外されているこのカードを特殊召喚する

初登場ターン：3

混沌なる闇を操りしもの - ダスク 6 闇属性 魔法使い族 攻撃力2200 守備力2000

このカードのフィールドでの属性は「光」としても扱う  
一ターンに一度自分フィールド上の混沌と名の付いた全てのモンスターの攻撃力をエンドフェイズ時まで500ポイントアップすることができる

この効果は相手ターンでも使える

このカードがフィールドを離れるとき相手フィールド上の裏側表示のカードを一枚破壊する。

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する、相手フィールド上の裏側表示のカードを全て破壊する

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、墓地のカードを二枚除外することで除外されているこのカードを特殊召喚する

初登場ターン：4

混沌の守護神 - デイフェス 6 光属性 戦士族 攻撃力2000 守備力3000

このカードのフィールドでの属性は「闇」としても扱う

このカードは守備表示の状態でも攻撃ができる

守備表示で攻撃する場合は攻撃力の数値を適用してダメージ計算を行う

自分フィールド上の混沌と名のついたモンスターが攻撃対象に選択された時、このカードに攻撃対象を変更することができる

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、このカードはカード効果によってフィールドから離れない

初登場ターン：1

混沌の暗闇

通常魔法

自分フィールド上の混沌と名の付いたモンスター一体をリリースして発動する

フィールドに存在する全ての魔法・罠カードを墓地に送り、互いに墓地に送ったカードの枚数分ドロウする

混沌世界一カオス・ワールドが表側表示で存在する場合、自分フィールド上の魔法・罠カードは墓地に送らなくてもよい

初登場ターン：3

混沌の宝札

通常魔法

自分フィールドに混沌世界一カオス・ワールドが表側表示で存在する場合のみライフを半分支払い発動できる

デッキからカードを五枚になるようにドロウする

初登場ターン：4

混沌の施し

通常魔法

デッキからカードを二枚ドロウし手札から混沌と名の付いたモンスター一体を除外する

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合更にもう一枚ドロウする

このカードの効果でカードを除外できなかった場合、手札を全てデ

ツキに戻す

初登場ターン：4

魔力炉

通常魔法

自分フィールド上の表側表示の永続魔法カードを一枚墓地に送り発動する。デッキからカードを二枚ドロウする

初登場ターン：4

混沌の調和

通常魔法

自分の手札が相手より少ない場合、自分フィールド上の混沌と名の付いたモンスターをリリースして発動できる

コイントスをして以下のどちらかの効果を発動する。混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、コイントスせずにどちらかの効果を選択して発動する

表：相手の手札と同じ枚数になるようにデッキからカードをドロウする

裏：相手は自分の手札と同じ枚数になるように手札をランダムに捨てる

初登場ターン：3

混沌の奇跡

通常罫

このターン戦闘で破壊された混沌と名の付くモンスターを一体特殊召喚する

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在

する場合このターン戦闘で破壊された混沌と名の付くモンスターを全て特殊召喚する

初登場ターン：3

混沌の離空

通常罫

混沌と名の付いたモンスターが攻撃が攻撃対象になった時、攻撃したモンスターと攻撃対象となったモンスターを除外して発動する  
このカードの効果で除外した相手モンスターのレベル×100ポイント、自分ライフを回復する

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、除外した相手モンスターのレベル×200ポイント、自分ライフを回復する

初登場ターン：3

混沌に染まる大地

永続罫

このカードはフィールドでは混沌世界一カオス・ワールドとしても扱う

混沌と名の付いたモンスターは一ターンに二回通常召喚できる

初登場ターン：4

混沌の裁き

カウンター罫

自分フィールド上に混沌と名のつくモンスターが表側表示で存在する場合のみ発動出来る

相手モンスター効果の発動を無効にして破壊する  
混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在  
する場合、無効にしたカードを破壊せずに除外する

ターン：5 『混沌』対『氷結界』 2人目（前書き）

新しいシンクロ召喚の使い手登場！



ターン：5 『混沌』対『氷結界』 2人目

リインフォースSide

はじめに言っておくが私は転生者だ。なに？意味が分からない？それは当たり前だ。私もよくわからない。あの時は主はやてに見送られ消滅したはずだが、気付いたら赤ん坊の姿になっていた。最初は色々と混乱し時間もかかったが慣れた。長い時を生きていた経験が役にたった。もつとも消滅したと思つたら赤ん坊というのは一度もないが……新しく生まれた私は前に主はやてに名付けられたリインフォースと同じ名前を付けられた。名字も主はやてと同じだったのは偶然だろうか？

そして私は八神財閥総帥の一人娘として育てられた。デュエルは時代についていくためと教えられたが私はかなりのめり込み、ついには大会で優勝するほどになった

そのおかげかデュエルアカデミアに通うことが認められた。そして出会った。シンクロモンスターを使う男夜神光也。あの男を見てみると何故か胸が高鳴る。この感情がなんなのかを確かめるために、私は今夜光也とデュエルをする。……あの大会で優勝したとき、貰ったカードを使って戦う

リインフォースSideOut

光也Side

「混沌の悪魔 - デイアボロで切り込み隊長を攻撃！更に手札のオネストを捨てデイアボロの攻撃力を切り込み隊長の攻撃力分アップする！」

混沌の悪魔 - デイアボロ攻撃力2500 3700

「う、うあああ!?!」

オベリスク・ブルーLP25000

「勝者、ラー・イエロー夜神光也!」

審判が勝利宣言すると会場が沸き立つ。俺はたった数日でデュエルアカデミアのスーパールーキーと呼ばれるようになり、二つ名まで付けられた。付けられた二つ名は……

「さすがだね。カオス」

「からかってんのかブルーノ?」

カオスと言うのは俺に付けられた二つ名。使うカードが混沌だからカオス……安直だなおい

「たつく……うん?メールか」

PDAにメールが届いていた。送り主は八神リインフォース……万丈目の時も思ったが、どうやって俺のPDAの番号を知った?

プライバシーはないのか?

「内容は……【今夜お前とデュエルがしたい。この挑戦を受けてくれるならメールを送り返してくれ、場所と時間は今夜10時、オベリスク・ブルー女子寮の近くの湖のほとり】か……」

俺は直ぐに返事のメールを送る

「【いいぜ。ただしお前が使うカードは二年前の大会で優勝したとき貰ったカードだ】……送信っと。今夜は楽しみだな」

開発者である俺と遊也を除いたらたった一人しかいない……シンク  
口召喚の使い手よ？

光也SideOut

ラインフォースSide

挑戦を受けてくれるらしい。ただし二年前の大会で優勝したときに貰ったカードを使って戦えか……確実にあの男はあの大会の関係者おそらくインダストリアルリユージョン社の人間だろう……そして今夜デュエルすることになったのだが……

「翔を返してもらっぜー！」

「来たわね……」

何故遊城十代と天上院明日香がここにいる？話を盗み聞けば丸藤翔が覗きをしたらしいが……それで遊城十代を呼び出したらしい。デュエルするためなら普通に挑戦すれば受けてくれると思うが……

「さてついたか……ってこの状況なんだ？」

「夜神光也か……」

事情説明中〜

「はあ……そうかよ。まあ俺達のデュエルはあいつらのデュエルを見てからにしようぜ?」

「……そうだな」

リインフォースSideOut

光也Side

「サンダー・ジャイアントでダイレクトアタック!ボルテック・サンダー!」

「きゃあああ!?!」

十代の勝ちか……これで翔は解放されるな

「ふん!まぐれで勝ったからといって、いい気にならないことね!」

俺はその言葉を聞いてついつい口出ししてしまった

「負けた理由をまぐれで片付けるなんて……見苦しいな」

「……え!?!」「」「」

「光也!お前いつから居たんだ!?!」

「お前らがデュエルしたあたりからだ。それにしても……おい茶髪」

「ジュンコよ!」

ジュンコってサブキャラっぽい奴が反論してくるが、俺は構わず続ける

「さっきも言ったが負けた理由をまぐれで片付けるなんて、見苦しいぞ」

「あ、当たり前じゃないのよ！オシリス・レッドが明日香さんに……」

「やめなさい！ジュンコ！」

反論していたジュンコの言葉を遮って明日香が言う

「あ、明日香さん……」

「負けは負けなのよ。夜神くんの言うとおり見苦しいわ」

「へえ、気持ちのいい性格してるな。あと俺のことは光也でいいぜ」

「分かったわ。私のことも明日香でいいわよ」

「おおそう「私のことはリインフォースと呼べ。私もお前を光也と呼ぶ」……っていきなりなんだよ？」

「（何故だろう……光也と仲良くしている明日香イライラする……一体何なんだ）大したことじゃない。ただお前の名字と私の名字じや音が一緒だから紛らわしい」

「ふん。まあいいや改めてよろしくだな。リインフォース」

「あ、ああ」

俺がリインフォースの名前を呼ぶと何故か頬を赤らめる。風邪……  
？いやさっきまで普通だったはず……一体？

「ところで光也とリインフォースは何しに来たんだ？」

空気を読まずに十代が俺たちに質問してくる。

「リインフォースにデュエルしようってことで呼びだされたんだよ。  
見学したいならすればいいさ」

「じゃあ俺見させてもらおう！」

「僕も見たいっす！」

「私も興味あるわ」

「私はシンクロ召喚って奴がみてみたいわ」

「私も見たいですわ！」

見学したいかどうか聞いたら全員見学すると返してきた。というか  
明日香の取り巻き2人、何故シンクロ召喚を知っている？まあいい  
や。大方明日香が口を滑らせたんだろう。今はリインフォースとの  
デュエルだ……

「ああ、リインフォースの許可とってなかったな。リインフォース。  
ギャラリーがいるけどいいか？」

「あ、ああ！か、構わん！始めるぞ！」

声かけたら多少慌てながら返してきた。まだ顔が赤いままだ。それで大丈夫かと思ったら、デュエルディスクを構えると表情がキリツとなる。流石大会優勝者。切り替えも早いな

「デュエル！」

光也SideOut

「先行は俺だ！ドロー！手札から混沌の守護者・ディフェスを守備表示で召喚！」

混沌の守護者・ディフェス      4      光属性      戦士族      攻撃力1000  
0      守備力2000

「更に魔法カード、二重召喚を発動！このターンもう一度通常召喚ができる！現われる！チューナーモンスター、混沌の調律師・ライト！」

混沌の調律師・ライト      2      光属性      魔法使い族      攻撃力1000  
0      守備力1000

「出たっす！チューナーモンスター！」

「いきなりでるのね！」

「俺はレベル4混沌の守護者・ディフェスにレベル2混沌の調律師・ライトをチューニング！混沌の守護者、混沌なる光の加護を得て守護神へと生まれ変わる！シンクロ召喚！全てを守れ！混沌の守護

神・ディフェス！」

混沌の守護神・ディフェス      6      光属性      戦士族      攻撃力2000  
0      守備力3000

「……早速だしてきたか」

「更に俺は手札からフィールド魔法、混沌世界一カオス・ワールドを発動！カードを二枚伏せてターンエンドだ！」

光也LP4000      手札0枚      場      混沌の守護神・ディフェス      混沌世界一カオス・ワールド      伏せカード二枚

「私のターン、ドロー！手札から魔法カード、氷結界の三方陣を発動！」

「氷結界……？聞いたこともないカードね……デッキも前とは多少違うみたいね」

リインフォースは明日香の疑問を無視してデュエルを進める

「氷結界の三方陣の効果。手札の氷結界と名の付いたモンスターを三種類相手に見せる相手フィールド上のカードを一枚選択する。私は手札の氷結界の虎将      グルナード、氷結界の番人ブリズド、氷結界の虎将      ガンタラの三種類を見せ混沌世界一カオス・ワールドを選択する。選択した相手のカードを破壊し、自分の手札から氷結界と名の付いたモンスターを特殊召喚する！現われる氷結界の虎将      グルナード！」

フィールドの中央に魔方陣みたいなものが出現しモノクロの世界を



吹き飛ばし、中央の魔方陣から、氷の鎧を纏い様々な氷の武器を持った男、氷結界の虎将　グルナードが現れる

氷結界の虎将　グルナード　　8　水属性　戦士族　攻撃力280  
0　守備力1000

「カオス・ワールドが除去されたか……」

「更に魔法カード、クロス・ソウルを発動する。混沌の守護神・デイエスを生け贄にささげ氷帝メビウスを召喚！」

「何!？」

氷帝メビウス　　6　水属性　水族　攻撃力2400　守備力1000

光也のモンスターを生け贄に冷気を纏った帝、氷帝メビウスが光臨する

「氷帝メビウスの効果。このカードが生け贄召喚されたとき、フィールド上の魔法・罫カードを二枚まで破壊する!　フリーズ・バースト!」

二本の氷柱が光也のリバースカードを貫く

「くっ!　混沌に染まる大地と混沌の裁きが……!」

「す、すげえ……一ターンで光也の場が全滅……」

「このままダイレクトアタックを受けたら光也くんの負けっす!」

「そして氷結界の虎将　グルナードの効果で通常召喚に加え氷結界と名の付いたモンスター一体を通常召喚できる。氷結界の番人ブリズドを守備表示で召喚」

リインフォースのフィールドに青い鳥のようなモンスターが現れる

氷結界の番人ブリズド　　1　水属性　水族　攻撃力300　守備力500

「ターンエンドだ」

リインフォースLP4000　手札一枚　場　氷結界の虎将　グルナード　氷帝メビウス　氷結界の番人ブリズド

「あれ？何で攻撃しないんすか？」

「これだからオシリス・レッドは……クロス・ソウルの効果でリインフォースさんはこのターンバトルフェイズは行えないのよ。分かった？」

「わ、分かったっす！」

「俺のターン……」

「どうした？やけに嬉しそうだぞ」

ドローしようとした瞬間、リインフォースに話かけられた。どうやら知らず知らずのうちに顔がにやけていたみたいだ

「いやな……一ターンでここまで追い込まれたのは久々だな……ついつい嬉しくなっちゃったんだよ……やっぱ強い奴と戦うのはいい。デュエルアカデミアに来てよかったぜ。ドロー！」

ドローしたカードは……俺も十代のこと言えないな

「手札から魔法カード、命削りの宝札発動！」

「命削りの宝札だと!？」

「デッキからカードを五枚になるようにドローする。そして五ターン後の自分スタンバイフェイズに手札全て捨てる……俺の手札は0枚、五枚ドローだ！」

「すげえよ光也!そんなドローカードを引くなんて！」

(十代……あなたが言えたことじゃないでしょ?)

何故だが知らんが明日香の心の声が聞こえた気がする……

「行くぜ!手札からフィールド魔法、混沌世界一カオス・ワールドを発動！」

「二枚目だと!？」

世界が再びモノクロになる

「更に魔法カード、混沌の施しを発動!デッキからカードを二枚、混沌世界一カオス・ワールドが表側表示で存在する場合三枚ドローし、手札の混沌と名の付いたモンスターを一枚除外する。混沌の闇

術師 - ダスクを除外する！そして墓地の混沌に染まる大地を除外し  
特殊召喚！混沌の闇術師 - ダスク！」

混沌の闇術師 - ダスク      4      闇属性      魔法使い族      攻撃力170  
0      守備力1500

「更にダスクを生け贄にささげ現われる！混沌の魔龍 - グラディオ  
ス！」

ダスクを生け贄にささげ現れたのは全身が黒く、所々白い模様があ  
るドラゴンのようなモンスターだ

混沌の魔龍 - グラディオス      6      闇属性      ドラゴン族      攻撃力2  
300      守備力1000

「新しいモンスターか……」

「混沌の魔龍 - グラディオスのモンスター効果！混沌世界一カオス・  
ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在場合、除外されてい  
るカードを一枚墓地に戻すもしくは墓地のカードを一枚除外するこ  
とができる！」

「くっ……やっかいな！」

「墓地の混沌の闇術師 - ダスクを除外！」

グラディオスの口から出た黒いブレスが光也の墓地に当たり、ダス  
クが墓地から除外される

「そしてダスクの効果で墓地の混沌の裁きを除外し特殊召喚！」

「無駄がない……！」

「混沌の闇術師 - ダスクの効果でグラディオスの攻撃力を500ポイントアップする！」

混沌の魔龍 - グラディオス攻撃力2300 2800

「行くぞ！グラディオスでグルナードを攻撃！混沌爪撃！」

氷結界の虎将 グルナード攻撃力2800 2500 守備力1000 700

グラディオスの爪がグルナードを引き裂く

「くっ……グルナードが！」

リインフォースLP4000 3700

「更にグラディオスの効果発動！破壊した相手モンスターの攻撃力の半分のダメージを相手に与える！混沌の吐息！」

「何！？うわあああ！？」

グラディオスの口から出た灰色のプレスがリインフォースを襲う

リインフォースLP3700  
2300

「俺のフレイム・ウィングマンと同じような能力を……！」

「続けて行くぜ！ダスクでブリズドを攻撃！」

「くっ……！戦闘で破壊されたブリズドの効果を発動！デッキからカードを一枚ドロウする！」

「カードを三枚伏せてターンエンドだ」

光也LP4000 手札二枚 場 混沌の魔龍・グラディオス 混沌の闇術師・ダスク 混沌世界一カオス・ワールド 伏せカード三枚

「私のターン、ドロウ！手札から魔法カード、ライトニング・ボルトックスを発動！手札の氷結界の虎将 ガンターラを捨て相手フィールド上の表側表示モンスターを全て破壊する！」

「させるか！リバースカードオープン！カウンター罠、混沌の幻影！」

俺のフィールド目がけて落ちた雷は霧に遮られる

（霧に防がれる雷って……）

「やはりカウンター罠か……だが手札から魔法カード、命削りの宝札を発動！」

「お前も命削りの宝札だと!？」

「私の手札は0枚……五枚ドロウする！」

「おお！2人ともすげえ引き運だ！」

(だから十代……あなたが言えたことじゃないのよ?)

「私は手札から魔法カード、死者蘇生を発動！先ほど手札から捨てた氷結界の虎将 ガンターラを蘇生させる！蘇れガンターラ！」

リインフォースか死者蘇生を発動させると墓地から左手に冷気を纏った武僧、ガンターラが現れる

氷結界の虎将 ガンターラ 7 水属性 戦士族 攻撃力2700  
守備力2000

「攻撃力2700……グルナードの方が攻撃力は上つす。なんでガンターラを……？」

「更に氷帝メビウスを生け贄に捧げ現われる！氷結界の虎将 ライホウを攻撃表示で召喚！」

リインフォースのフィールドに現れたのは優男のような美男子だった

氷結界の虎将 ライホウ 6 水属性 戦士族 攻撃力2100  
守備力2300

「きゃー！何あのモンスター！？」

「かっこいいですわ！」

「あれ？でもメビウスより攻撃力が低くないか？あいつ？」

「かっこいいからいいじゃない！」

「そうですね！」

「お、おう……」

女子連中のあまりの迫力に、流石の十代も黙るか

「更に手札から装備魔法発動！氷結界の雫！」

ライホウの身体全体が氷の雫のようなもので覆われる

「このカードは氷結界と名の付くモンスターにしか装備できない。そして装備したモンスターの攻撃力が300ポイントアップする」

氷結界の虎将   ライホウ攻撃力2100   2400

「バトルだ！氷結界の虎将   ライホウでダスクを攻撃！」

「リバー……」氷結界の雫の効果で装備モンスターが攻撃するとき相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠が使えない「何！？」

リインフォースの言葉を証明するように光也のリバースカードが凍って使えなくなる

「くっ、ダスクの効果で攻撃力を500ポイントアップする！」「ライホウの効果、相手はモンスターの効果処理時、手札を一枚捨ててよい。捨てなかった場合、その効果モンスターの効果は無効になる」  
くっ……手札の混沌の暗闇を捨てる」

「効果は続行……ライホウの攻撃力は300ポイントダウンしダス



クの攻撃力は500ポイントアップする」

氷結界の虎将   ライホウ攻撃力2400   2100

混沌の闇術師 - ダスク攻撃力1700   2200

「反撃だ！」

ダスクの杖から黒い魔力弾がライホウ目がけて放たれるが、ライホウの身体全体に纏った防がれる

「氷結界の雫を装備したモンスターは一ターンに一度破壊されない！」

「だがダメージは別だ！」

リインフォースLP2300   2200

「くっ……氷結界の虎将   ガンターラでグラディオスを攻撃！氷結撃！」

「リバースカードオープン！混沌の盾！自分フィールド上に混沌と名の付くモンスターが存在する場合発動出来る！相手モンスターの攻撃を無効にしデッキからカードを一枚ドロウする！」

ガンターラの攻撃は地面から浮き上がった丸い白黒の盾に防がれる

「攻撃無効にドロウか……」

「更に混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示

で存在する場合、このカードは発動後セットしなおす」

「な……！？毎ターン使えるのか！？カードを二枚伏せてターンエンドだ。そしてガンターラの効果！エンドフェイズ時墓地から氷結界と名の付いたモンスターを特殊召喚できる！蘇れ！グルナード！」

ガンターラが呪文みたいなものを唱えるとフィールドに巨大な氷塊が現れ、ガンターラがそれを砕くとグルナードが中から現れる

「蘇生効果モンスターだったのか……」

「だからガンターラのほうを死者蘇生で蘇させたのね」

リインフォースLP2200 手札0枚 場 氷結界の虎将 ガンターラ 氷結界の虎将 ライホウ 氷結界の虎将 グルナード 氷結界の雫 伏せカード二枚

「俺のターン、ドロー。混沌の闇術師 - ダスクを生け贄に捧げ混沌の姫君 - リセスを守備表示で召喚！」

ダスクを生け贄にして現れたのは、全体的に白く、所々に黒いラインが入ったドレスを着こんだ女性がいた

混沌の姫君 - リセス レベル6 光属性 魔法使い族 攻撃力2000 守備力2300

「混沌の姫君 - リセスの効果！混沌世界 - カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、墓地の混沌と名の付くカードを一枚除外する事でフィールド上のカードを一枚破壊する！ライホウを破壊！ライホウの効果で手札を一枚捨てるぜ」

「くっ！氷結界の雫の効果で一ターンに一度ライホウを破壊されな  
い！」

「分かつてるさ！だがこれで戦闘で破壊できる！更に俺はライフを  
半分支払い手札から魔法カード、混沌の宝札を発動！デッキからカ  
ードを五枚になるようにドローする！」

光也LP4000 2000

「ならばチェーンして発動！氷結の滅殺！更にチェーンして逆転の  
明札！」

「何！？」

光也は非常に驚いた。何故なら自分が全く知らないカードだったか  
らだ

（氷結界の雫は忘れかけていたが俺が考えたカードだが……氷結の  
滅殺なんてカードは全く知らないぞ。一体……って考えるまでもな  
いか。養父さんだな。おそらくサプライズのつもりで入れたんだろ  
う……あじな真似してくれるな）

「チェーンの逆順によりまずは逆転の明札の効果が発動する。相手  
がドローフェイズ時以外にデッキからカードをドローしたとき相手  
に同じ枚数になるようにドローする。私の手札は0枚……五枚ド  
ーだ！」

「おおすげえ！」

「確かにすごいっす！」

「更に氷結の滅札の効果！墓地の氷結界と名の付くモンスターを除外して発動する！氷結界のブリズドを除外して発動！相手がドローフェイズ時以外にデッキからカードをドローしたとき、相手がそのカード効果でドローしたカードを全てデッキに戻す！」

「何！？デッキに戻すだ！？？」

光也の手札が全て凍り付き、砕け散る。砕け散った欠片は光也のデッキに集まっていく

「くっ……状況がかなりきつくなった……」「これはまずいわね……光也がした行動は無駄に終わってしまった……しかもライフポイントを半分失い、リインフォースに手札を与えてしまった……」

「……バトルだ。俺はグラディオスでライホウを攻撃！」

グラディオスの息吹きがライホウを燃やす

リインフォースLP 2200      2100

「更にグラディオスの効果で破壊したモンスターの攻撃力の半分のダメージを相手に与える！」

「くっ……」

リインフォースLP 2100      1050

「ターンエンドだ」

光也LP2000 手札0枚 場 混沌の魔龍・グラディオス 混沌の姫君・リセス 混沌世界一カオス・ワールド 伏せカード二枚

「私のターン、ドロー！手札から速攻魔法、サイクロンを発動してリバーズ状態の混沌の盾を破壊！」

「くっ……」

「更に手札から魔法、魔法石の採掘を発動！手札を二枚すて墓地の魔法カードを一枚手札に加える！死者蘇生を手札に加える！そして死者蘇生を発動！蘇れ！メビウス！更に手札から氷結界の番人ブリズドを召喚！そしてこれがお前が望んだものだ！グルナードの効果でもう一度通常召喚ができる！現われる！チューナーモンスター、氷結界の術者！」

氷結界の術者 2 水属性 水族 攻撃力1300 守備力0

ラインフォースの召喚したモンスターに光也以外が驚いた

「……チューナーモンスター！？」「……」

「行くぞ！レベル6氷帝メビウスとレベル1氷結界の番人ブリズドにレベル2氷結界の術者をチューニング！」

氷帝メビウスと氷結界の番人ブリズドを2つの光の輪になった氷結界の術者が包みこむ

「レベル6とレベル1にレベル2を足したら……！」

「レベル9になるわね」

(あいつがでるか……)

「氷結に誘う古代の龍よ、銀に輝く翼を持って、悪しき者を凍てつかせよ！シンクロ召喚！吹雪け！氷結界の龍 トリシューラ！」

シンクロ召喚して現れた同じ首を3つ持った龍だった

氷結界の龍 トリシューラ レベル9 水属性 ドラゴン族 攻撃  
力2700 守備力2000

「シンクロモンスター！？どうしてリインフォースが持っているの！？」

「それは後で話そう……今はデュエルだ……氷結界の龍 トリシューラの効果！シンクロ召喚に成功したとき、相手の手札・フィールド上・墓地のカードをそれぞれ一枚まで除外する！」

「召喚時限定とはいえ、相手のカードを三枚も除外するの！？」

「チエーンして発動！迷える混沌！このターン相手はバトルフェイズを行えない！更に……」

「悪いが私がチエーンさせてもらおう。手札から速攻魔法、瞬間氷結を発動！相手の魔法・罫の発動を無効にし、リバーズ状態にする」

「迷える混沌が！？(十代の時も思ったが、マンガオリジナルのカードもあんのかよ！)」

光也の発動しようとしたリバーズカードは凍り付き、使えなくなった

「そしてそのカードは三ターンの間使用できない。トリシューラの効果で、もう一枚のリバーズカードと墓地の混沌世界一カオス・ワールドを除外する。氷封光線！」

左右のトリシューラの口から出た氷の光線が光也のリバーズカードと墓地を貫く

「リバーズカードはやはり混沌に染まる大地か……」

(くっ……まずいな……)

「バトルだ！トリシューラでリセスを攻撃！トライ・フリーズ・ブラスト！」

全てのトリシューラの頭から放たれた氷の息吹きは、一瞬でリセスを凍てつかせ砕く

「破壊されたりセスの効果！ゲームから除外された混沌と名のつくカードを一枚手札に加える事が出来る！混沌の施しを手札に加える！」

「だがこのターンで終わりだ！ガンターラで攻撃！氷結撃！」

「させるか！墓地の混沌の盾を除外して発動！」

「墓地から畏だと!?!」

「混沌の盾の効果は墓地の、からでも使える。ただしこの効果を発動した場合、このカードはゲームではもう使えなくなるがな……」

役目を終えた混沌の盾はボロボロになって消え去った

「ならばグルナードで攻撃だ！氷器怒涛！」

グルナードの持つ全ての氷の武器がグラディオスを切り刻む

「くっ……！」

光也LP2000 1500

「ターンエンドだ。そしてガンターラの効果でライホウを蘇生だ」

ラインフォースLP1050 手札0枚 場 氷結界の虎将 ガン

ターラ 氷結界の虎将 ライホウ 氷結界の虎将 グルナード

「うわわ！光也くん大ピンチっす！」

「いや、光也ならこのターンで逆転する！」

「そう断定する根拠は？」

明日香に聞かれた十代は自信満々に言う

「勘だー！！」

「勘って……」



「やっぱりオシリス・レッドだね」

「俺のターン……ドロー！これが最後のフィールド魔法だ！混沌世界一カオス・ワールドを発動！」

世界が三度モノクロの世界と化す

「そして手札から魔法カード、混沌の施しを発動！デッキからカードを三枚ドローする！ドロー！」

俺はゆつくりとドローしたカードを捲る。ドローしたカードは……

「手札の混沌の戦士・ダストを除外！」

「引き当てたか……だが残り二枚のカードに逆転の手はあるのか？」

「あるさ！手札から永續魔法！混沌の解放を発動する！このカードは混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合のみ発動出来る！墓地、もしくはゲームから除外されている混沌と名のつくモンスターの召喚条件を無視して特殊召喚する！ただし特殊召喚されたモンスターの効果は無効になるがな。グラディオスを特殊召喚！」

地面を吹き飛ばしグラディオスが現れる

「効果を無効にされていたら……私には勝てないぞ」

「慌てるなよ。まだ俺は通常召喚を行っていない……混沌の調律師・ダークを召喚！」

混沌の調律師 - ダーク                    2    闇属性    魔法使い族    攻撃力1000  
0    守備力1000

「チューナーモンスター……まさか!？」

「そうだ!レベル6混沌の魔龍 - グラディオスでレベル2混沌の調律師 - ダークをチューニング!」

空を飛んだグラディオスを2つの闇の輪が包みこむ

「混沌の魔龍は混沌なる闇を得てさらなる高みへ昇華する!シンク口召喚!焼き尽くせ!混沌の魔龍帝 - グラディオス!」

そこに現れたのはより大きくまがまがしくなったグラディオスだった

混沌の魔龍帝 - グラディオス            8    闇属性    ドラゴン族    攻撃力  
3000    守備力2000

「また新しいシンクロモンスターだ!」

「混沌の魔龍帝 - グラディオスは破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを与える効果を持つ!」

「何!?!ということとは私の負けか……!」

「ああ……リインフォース……!」

「何だ?」

「楽しいデュエルだったぜ!」

「私もだ」

「行くぞ！混沌の魔龍帝・グラディオオスでライホウを攻撃！混沌魔却破！」

灰色の炎がリインフォースごとライホウを焼き尽くす

「きゃああああ！？」

リインフォースLP10500

「すげえデュエルだったぜ！」

「あ、ああ」

「ところでリインフォース。あなたはシンクロモンスターを何処で手に入れたの？」

「……あのカードは二年前、インダストリアルイリュージョン社に投資している会社の子供だけで行われたデュエル大会で優勝したときに貰ったカードだ」

「インダストリアルイリュージョン社に投資って……リインフォースさんひよっとして八神財閥出身？」

「そうだ」

「八神財閥っすっか！？」

「なあ明日香……」

「どうしたの十代？」

「八神財閥って何だ？」

「あなたはそんなことも知らないの！？八神財閥と言えば世界でも五本の指に入る大企業じゃないの！」

「おお、そうか！」

「まあそれでいい。それでそのカードはデュエルアカデミアに入るまで人前で使うなと言われていて……」

「言われたって誰に？」

「モノクロのマスクを被った大会主催者だ。多分光也だろう。声も似ていたからな」

「そうなのか？光……」

十代が光也のいた方に顔を向けると、いつの間にか光也はいなくなっていた

「い、いつの間に!？」

「さっき私に問い詰めている間だろう……」

「くそ……結局待たなくちゃいけないのかよ……」

「待つって何を？」

「ああ、昇級試験の時、教えてくれるって約束したんだが……」

「なら、その時を待ちましょう。無理して聞く必要もないわ」

「そうっすね……気になる話ではあるっすけど……」

「まあいいや！またな明日香」

「あ、待つてよ兄貴」

そう言って十代と翔は帰っていく

「またね、十代」

「明日香さん。私たちも帰りませんか？」

「そうね」

そう言って明日香達も自分の寮へ帰っていく

(うつつ……デュエル中は気にする余裕はなかったけど、光也を思  
うと胸がドキドキするのは何で何だ？)

自分の気持ちに気付かないまま夜はふけていく……

ターン：5 『混沌』対『氷結界』 2人目（後書き）

混沌の魔龍 - グラディオス 6 闇属性 ドラゴン族 攻撃力2  
300 守備力1000

このカードのフィールドでの属性は「光」としても扱う

このカードが相手モンスターを戦闘で破壊したとき、破壊したモンスターの攻撃力の半分のダメージを相手に与える

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、一ターンに一度除外されているカードを一枚墓地に戻すもしくは墓地のカードを一枚除外することができる

氷結界の雫

装備魔法

このカードは氷結界と名の付くモンスターにしか装備出来ない

装備モンスターの攻撃力は300ポイントアップする

装備モンスターが攻撃する場合相手はダメージステップ終了時まで

相手は魔法・罫は使えない

装備モンスターは一ターンに一度破壊されない

混沌の盾

通常罫

自分フィールド上に混沌と名の付くモンスターが存在する場合発動出来る

相手モンスターの攻撃を無効にしデッキからカードを一枚ドロウする

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、このカードは発動後セットしなおす

このカードを墓地から除外することで相手の攻撃を無効にする。この効果はデュエル中に一度しか使用できない

混沌の姫君 - リセス

レベル6 光属性 魔法使い族 攻撃力2300 守備力2000

このフィールド上の属性は「闇」としても扱う このカードが破壊された時ゲームから除外されている混沌と名の付いた自分のカードを一枚選択して手札に加えてよい

混沌世界一カオス・ワールドが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、墓地から混沌と名の付くカードを一枚除外して発動出来る 相手フィールド上のカードを一枚選択して破壊する

この効果は一ターンに一度のみ使える

氷結の滅札

通常魔法

相手がドローフェイズ以外にカードをドローした時、自分の墓地の氷結界と名の付くモンスター一体を除外しつ発動する

相手がそのカード効果でドローしたカードを全てデッキに戻してシヤッフルする

混沌の解放

永続魔法

このカードは自分フィールド上に混沌世界一カオス・ワールドが表側表示で存在する場合のみ発動できる。墓地、またはゲームから除外されている混沌と名の付くモンスター一体の効果と召喚条件を無効して特殊召喚する

このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。そのモンスターが破壊された時、このカードを破壊する

混沌の魔龍帝 - グラディオス

レベル8 ドラゴン族 闇属性 攻撃力3000 守備力2000

混沌と名の付くチューナー + 混沌の魔龍 - グラディオス

このカードはフィールドでの属性は「光」としても扱う

このカードはシンクロ召喚と混沌と名の付くカードの効果でしか特殊召喚出来ない

混沌世界 - カオス・ワールドがフィールドに表側表示で存在する場合1ターンに1度墓地のカードを三枚まで除外、若しくは除外されているカードを三枚まで墓地に戻す事が出来る

このカードが戦闘によって相手を破壊した時破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを相手に与える



ターン：6 昇級試験に来る家族（前書き）

久しぶりの更新です！言い訳は後書きで！

## ターン：6 昇級試験に来る家族

光也Side

「明日から昇級試験か……頑張らなくちゃな。」

「口はそう言っても、そんな態度じゃやる気は感じられないよ。」

明日から昇級試験なのに余裕かましてる俺をいさめるのは相部屋の相手のブルーノ・アンチノミー。色々と話してるので結構仲がいい。

「ぶっちゃけ筆記試験なんて余裕なだけだね。」

「言い切ったね。」

はっきり言わせてもらえば余裕だ。転生者で前世からデュエルをしていた俺からすればかなり楽だ。多分元いた世界の人間だったら結構いけると思う。問題があるとすれば、現実とのカード効果の違いとルール裁定の違いである。最初の頃はよく、カード効果やルール裁定をちよくちよく間違えていたものである。今はそんなことはないが……

「そついや実技試験の相手って確か、同じ寮の人間だったよな？」

「そつだよ。」

「なら十代の相手は誰になるんだろうな？」

「……難しいね。オシリス・レッドで彼の相手になる人がいるとは

……思えないな。」

そうなんだよな。十代の實力はオシリス・レッド……いやデュエルアカデミアの中でもトップクラスの方だ。ところで原作で十代の相手って誰だったっけ？原作知識が殆ど薄れているからわかんねえ。

「そう考えるとラー・イエローの俺の相手は一体誰になるんだろうな？」

「君の實力はラー・イエローどころかオベリスク・ブルーも相手にならないからね……」

「まあラー・イエローの中で俺の相手になるのは……三沢かお前ぐらいのものだな。」

「僕も入っているとは光栄だよ。」

「そりやお前……筆記N0・1で実技も教官相手に1ターンキルしたんだろ？實力ないって言う方がおかしいだろう？」

「そうだけど……何で僕が筆記N0・1だって知ってるんだ？それは誰にも言っていないはずだけど……？」

「明日教えてやるよ……んじゃおやすみ……」

「結構早く寝るんだね？まだ10時だよ？」

「……………」

「あれっ？どうした……っってもう熟睡しているのか……話し相手も

いなくなつたし僕ももう寝るか……」

（翌日）

「筆記終わったぜ。あゝだるかった。」

「後半熟睡していた人のセリフじゃないよ……」

「前にも言ったが、ぶっちゃけ筆記試験なんて余裕だ。」

「本当にストレートだね……ところでパツクは買わないのかい？」

「今更いらんだろう……ぶつつけ本番じゃ、デッキが悪くなるだけだ。」

「全面的に同意だな。デッキは、緻密な計算の元で成り立っているものだ。」

この世界において現実の世界に近い考え方をする男、三沢大地。しかし……

「何時から居た？三沢？」

「最初っからだ！」

「スマン。素で気付かなかった。」

ぶっちゃけマジで気付かなかった。伊達にミスターエアーマンと呼ばれてるわけじゃないな。

「くっ……なんか変なこと考えられているが、まあいい。実技試験、君達と当たることを祈るよ。」

「祈らなくても十中八九そうなるだろうな。」

「何でそう思うんだ？」

ブルーノがそう訪ねてくるが、少し考えれば分かるだろうが。

「実技試験で当たる相手は大体同格……ラー・イエローで俺たちの相手になる奴は殆どいない……つまり俺たちぐらいしかないだろうっ？」

この考えは思い上がりではなく、単なる事実だ。惜しい奴らならいくらいるが、同格となるとそういない。オベリスク・ブルーでもそうそういないし……っかオベリスク・ブルーもラー・イエローも實力はあまり変わらない。いや安いエリート意識のせいかわべリスク・ブルーのデュエルタクティスはラー・イエローより甘い。格下に負けるはずがないと根拠のない自信を抱いているせいだろう……

【ピ〜ンポ〜ンパ〜ンポ〜ン。ラー・イエロー一年、夜神光也くん、校長先生が呼んでいます。至急校長室まで来て下さい。繰り返しします。ラー・イエロー一年、夜神光也くん、校長先生が呼んでいます。至急校長室まで来て下さい。】

「ん？何だ？」

「心当たりはあるかい？」

「いんや、全くない。」

「つかさつき放送した奴ピクンポクンポクンって口で言ってたよな？何で誰も突っ込まないんだ？」

「まっ、行くか。」

俺は行けば分かるだろうという軽い気持ちで校長室に足を運んだ。

〈校長室〉

「失礼します。」

「Oh！ようやく来ましたね。マイサン、光也！」

「養父……ペガサス会長！？」

部屋に入って真っ先に俺の目に飛び込んできたのは、この世界で俺を育てて養子にしてくれたペガサス会長がいた。

「Oh！ここでミーの立場を気にする必要はありません！私のことはファーザーと呼びなさい！」

「まあそれなら遠慮なく呼ばせてもらいますけど……」

「はっはっは！まさか光也くんが、ペガサス・J・クロフォードの養子だとは……驚きましたよ！」

「校長先生……俺を呼んだ用って養父さんが来たからですか？」

「確かにそうですが後一人、君への客は来ています。」

「後一人……？」

「私だよ光也。」

「お前は……天馬月行！」

天馬月行……俺と同じペガサスミリオンの一人で養父さんからパーフェクト・デュエリストの称号を与えられる程……だけど実際パーフェクトの意味合いは違う……周りの奴らは気が付いてないが月行は薄々と気付いているみたいだな。養父さんの言うパーフェクトがどういう意味か。

「久しぶりだな……うん？夜行は？一緒じゃないのか？」

夜行は月行の双子の弟のことだ。いつつも2人一緒にいるからつきり付いてきたかと思ったんだが……

「……………」

「ど、どうした？急に黙りやがって……？」

「夜行は君がデュエルアカデミアに行った翌日、ペガサス様のデザインしたカードのデータを盗んで消えたよ……」

「マジかよ……」

「あの日のデュエルで光也に負けたのがよっぽど悔しかったんだろ  
う……ペガサス様の言葉にすら耳を貸さなかった……」

あの日は養父さんの後継者を決める大会の事で、俺と夜行は準決勝で戦った。結果は俺の勝ち。勝たなくちゃいけないというプレッシャーに負けている夜行じゃ、相手になるはずもなかった。

「それは重症だな……ペガサス信仰者と言っても言いあいつが養父さんの言葉に耳を貸さないなんて……ところで盗んだカードのデータって？」

「それは……」

「私が説明しましょう！」

月行に説明を求めたら養父さんが話しに入ってきた。

「夜行が盗んだカードのデータは、かつて私が作った幻神獣に対抗するために作った名も無き神デース！」

「名も無き神!？」

「そうデース。この私がデザインだけで名前すら決めていないカード……しかしあれらのカードが創造されるとどんなパワーを持つかわかりませーん！」

「夜行め……一体何をするつもりだ？」

しかし名も無き神……前世のどこかで聞いたことあるな……あゝ！思い出せねえ!?!この件は保留にするしかねえな！

「それはわかりませーん!それと今日ここへ来たのはそれだけではありませーん!」



「他に何か用があるんですか？」

「シンクロ召喚の新しいテストデュエリスト……それを探しに来ましたー。今日の試験を見て決めるつもりです！」

新しいシンクロ召喚のテストデュエリストか……

「それなら俺から推薦したい奴が三人程いるんですが……」

「三人？一体誰ですかー？」

「そいつらは……」

光也 Side Out

ブルーノ Side

光也がなかなか戻ってこない。もう実技試験は始まっているというのに大丈夫かな……？

「ブラッド・ヴォルスでダイレクトアタック！そしてメインフェイズ2で破壊輪を発動！ブラッド・ヴォルスを破壊！更に地獄の扉越し銃で俺が受けるダメージを君に与える！」

「うわあ！？」

ラー・イエロー LP4000 21000

入学試験の時と同じようなコンボ……しかも地獄の扉越し銃でダメ

ージを相手に押しつけている……僕の居た時代で禁止カードになっている理由がよく分かるよ。ん？僕の居た時代ってどういう意味？そう思った画面の前の人が居ると思うから言うけど、僕はこの時代の人間じゃない。約20年後の未来からやってきた人間だ。何でそうなったか端的に言うのと、ブラックホールに飲み込まれたと思ったらこの世界に居た。あの時は驚いたよ。死んだと思って気が付いたら、デュエルアカデミアの実技試験を受けていたんだから。試験は楽に勝った。けど何故か使っているカードの効果は一部変わっているし、僕が知らないカードもあったし。

まあ強力だから良いとしよう……しかし20年前と言えばまだシンクロ召喚が出る前の時代の話だ……僕のTGデッキはシンクロ召喚がメイン。別にそれなしでも戦えない事もないけど……三沢が戦ったから恐らく僕の相手は光也……シンクロ召喚せずに勝てるような相手じゃない。一体どうしよう？

「ブルーノ？難しい顔して一体どうした？」

「いや光也とのデュエルの戦略を……って光也何時の間！？」

考え事していたからって……全く気付かなかった

「さつきからいたぞ……それよりそろそろじゃねえか？」

そう言うと中央のスクリーンに僕たちの名前が出る。僕と光也に4フィールドでのデュエル……つまり僕対光也か。というよりまるで計ったかのようなタイミングだね？

「ほれ、さつきと行くつぜ」

「分かったよ」

光也が相手……シンクロ召喚を使う必要があるだろうね……しかし  
後の説明を考えると……

「……億劫だね。」

ブルーノSideOut

ターン：6 昇級試験に来る家族（後書き）

久々の投稿です！

光「何故ここまで遅れた上に短い……？言い訳なら少しだけ聞いてやる……。」

えっと……作品を書いていたんだけど、保全せずに消しちゃって……

光「ほうほう……？」

その内他の作品読みふけちゃって……

光「死にさらせ！」

ごはあ！？

光「だあ！おら！どうらあ！！！」

ぎゃほ！？ぎひ！？ぎよはあ！？！！？？

光「内の馬鹿作者のせいで何人が迷惑したかもしれんがこれからもこの作品を見捨てないでくれ。じゃあな。ん？作者の血が……文字になっっている……？」

感想待っています

光「殺人現場によくあるベタなダイニングメッセージみたいだな。」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7151t/>

---

遊戯王GX～混沌なる世界の混沌の決闘者～

2011年11月28日07時52分発行